

旭市新庁舎建設基本設計(素案)に対するパブリックコメントの実施結果について

1 実施結果

募集期間	平成29年12月15日から平成30年1月5日まで	
意見提出者数	47	人
意見数	124	件

2 基本設計(素案)に対する項目別の意見数

項 目	意見数
1. 設計方針	0
2. 計画概要	33
3. わかりやすく使いやすい庁舎	8
4. 防災・安全対策	12
5. 生涯コストを抑えた施設整備	26
6. 新しいまちづくりの拠点	26
7. 工事計画	4
8. その他	15
合 計	124

3 意見への対応

対 応 内 容	件 数
①今後の新庁舎建設事業の参考とします。	98
②ご質問(ご意見)にお答えします。	26
合 計	124

旭市新庁舎建設基本設計(素案)に対する意見への市の考え方について

2. 計画概要

No.	意 見	市の考え方	対応
1	周囲の景観に配慮するとともに、来庁した人々に安らぎを与えられるよう敷地内に木、緑や色彩豊かな花などを植栽してもらいたい。	植栽は、メンテナンスの手間が過大にならないように樹種を選定するとともに、市の木・花や花壇の設置を検討します。	②
2	緑地の多い外構。		
3	緑を多く取り入れ、緑地帯の中に庁舎がある自然風が良いと思います。		
4	緑地帯を多く設けて下さい。		
5	緑の多い敷地に庁舎が建っているような環境にしてもらいたい。		
6	桜を植えて、溜め池のような何か集まりやすいイメージに。桜まつりと連携、連動する等。		
7	周囲の景観への配慮、また来庁者や市役所勤務者にも安らぎを与えられるよう、庁舎敷地内の緑を多くしてもらいたい。		
8	緑地帯の緑(樹木等)は、多くとりつつ、公園と一体化し、且つ開放感を損なわない(来庁者の視線を遮らない)ような低木と高木(5m以上)を多く植えてほしい。		
9	植栽の見直し。職員が自ら手入れをするのであれば可。		
10	緑化は、やりすぎないようにお願いします。		
11	庁舎周辺で、子供やお年寄りが憩いを楽しめるよう、また誰もが直接用はなくとも自然に集うことのできるような、かたぐるしくない景観と形状にしてほしい。	来庁者が気軽に利用できる新庁舎を目指して、圧迫感のない建物形状や周囲に開かれた市民活動エリアなどを計画します。	①
12	駐車場内に屋根のあるコミュニティバス、タクシー乗り場を作り、来庁者の利便性を向上してほしい。	応付きの車寄せを建物正面の出入口付近に計画します。	①

13	駐車場ですが、かなりの収容スペースですが、出入りが対向しており、できれば出入口を2か所にして混雑時流れがよくなり、正面衝突事故も少なくなると思うので(専門家にゆだねますが)、また歩行者が結構曲がって歩く距離が長くなるようなので、中央からストレートで玄関に行けるようにならないでしょうか。	出入口は、新庁舎の前面道路(県道)区間に、数箇所の交差点があり、安全面を考慮して1箇所とします。 敷地内には、事故や迷い防止のために、見やすく分かりやすい案内サインや動線を計画します。 また、駐車しやすい車両動線や歩行者にやさしい歩車分離を計画します。 緊急時用としての出入口を別に計画します。	①
14	駐車台数は十分なのか。多くの職員を配置するのに、職員の駐車場所はどうか。今までの場所から歩いていくのか。	新庁舎敷地内に、職員駐車場は計画しておりませんので、現在使用している駐車場や市の公有地、公共施設の跡地の利用などを含めて検討します。	②
15	香取市役所や成田市役所など、かなり広い駐車場がありますが、いつも満車です。車社会なので基準よりは多く充分な広さを確保してもらいたい。	駐車場は、来庁者数等を考慮して、駐車台数とともに安心して利用できるように計画します。	
16	駐車場はなるべく広く、出入りのしやすいようにしてほしい。		
17	駐車場から庁舎までにガラス庇を複数設置していただきたいです。雨の日にマイカーで何人も乳幼児を連れて庁舎を訪れることが多いので是非検討してください。ガラス庇はキッチンと強度の取れたトップライト材を使用して下さい。	車寄せや多目的駐車場に雨避けの庇を計画します。 駐車場から庁舎までの庇は、費用面等を含めて検討します。	②
18	駐車場から建物までパーゴラがあれば、雨の日に便利だと思う。		
19	公用車駐車場について、基本計画時は平面駐車場であったものが、ほとんどが地下駐車場となっており、コスト増の要因になっているように思われます。公用車駐車場は基本計画時には、屋外平面駐車場となっており、外構工事費に含まれていたと解釈していますが、今回の基本設計では屋外の駐車台数が大幅に削減されたはずですが、外構の事業費については変更が無いようです。事業費の見直しについて検討をお願いします。	来庁者の利便性を考慮して、新庁舎1階の面積を広くとるため、屋外駐車場の面積を縮小して計画します。 地下駐車場は、建築構造と関連しますが、利便性や費用等を比較検討しながら計画します。 事業費は、これから実施設計へと段階を踏んでいく中で、可能な限り事業費の縮減を図っていきます。	①
20	多目的ホール(室)として、市民または市内の企業へ貸出等を行うことにより幅広く利用があると思います。別棟でも良いと思います。	1階に、各種発表会や展示会など、幅広く利用できる市民活動の場を計画します。 貸出方法は、今後検討します。	①
21	建物は何階でもよいが、会議室等、借りやすいようにしてほしい。		
22	屋内、屋外を問わず、敷地内を全面禁煙にしてもらいたい。敷地内に喫煙ブースを設けるのであれば密閉式の建物にし、煙がもれない構造にしてほしい。	受動喫煙の防止対策として、新庁舎敷地内の禁煙又は喫煙スペースの設置を検討します。	①

23	子育て支援課や福祉課などを1Fにする(高齢の方やお子様のいる方が、アクセスしやすい位置に)。廊下も広めにしてほしい。	子育て支援課と子育て支援センターハニカムとの連携を考慮して、2階に配置を計画します。 行き来しやすいように、エレベーターの設置や幅広で曲りの少ない通路幅を計画します。	②
24	外壁をカーテンウォールとし、開放的な空間デザインを主眼において設計されているようですが、複層ガラスの採用とはいえ、空調設備にとっては非常に熱負荷の大きいものとなっているように思われます。メインプロムナード側に配置される、執務室スペースや会議室など、市民開放スペースとなる場所以外の外壁などについては、在来工法やその他の工法と比較し、さらなる空調負荷の低減と建設コスト削減について検討をお願いします。	明るく開放的な新庁舎を目指して、1、2階の県道側と仁玉川側に面した部分には、ガラスの多用を計画します。 それ以外の外壁では、採光、通風、排煙などの機能面を確保しつつ、ガラスの使用面積を抑えて計画します。 また、県道側と仁玉川側に面したガラスには、飛散防止対策を行います。	①
25	デザインにこだわらず、正方形でガラス面の少ないシンプルなコスパの高い建物。モニュメント等必要なし。理由としては、血税が使われるので豪華な建物は必要なく、災害に強い建物が良い。災害時に重要な拠点となる場所なので、ガラス面が多いとガラスが割れて危険だし、使用が制限されてしまう。		
26	ユニバーサルデザインに対応した庁舎としてデザインのにも、また耐震性・耐久性に優れていると思う。ただし、壁面のガラスの占める割合が多すぎないか。清掃や保守点検上のコストがかかるのでは。例えば、酷暑時のグリーンカーテンを施すことができるようにとか。(小学生に協力を依頼するなど)		
27	先般の「国土強靱化対策」でも中央病院を中核とした街づくりをうたっていることに対し、中央病院の地下設備は免振構造以外は、電気的な設備を含めて非常に水に対し弱体化しているとの意見を述べましたが、旭中央病院の本館周囲道路は今年の台風21号時大変な水没を起こし、道路封鎖となったため、車で病院体育館まで直接通行することができませんでした。確かに仁玉川への排水事業で強化策は行っていますが、市庁舎も同様に主要設備としての機能を維持するためには、周囲より一段か二段高い位置から進入できるように防御態勢を万全にする必要があると考えます。確かに市民に対し、敷居の高い設備となりかねませんが、いざ災害時にはその機能を発揮するのが先決と考えます。	新庁舎の敷地は、津波ハザードマップ上の浸水地域ではありませんが、万が一の浸水に備えて、非常用発電機やサーバーなどの設備は、設置場所を上層階に計画します。 また、バリアフリーを損なわない範囲で、建物1階床の高さを周囲より高くすることを検討します。	①
28	庁舎の1階部のTPはどのくらいかわかりませんが、現在仁玉川の氾濫防止工事(護岸工事)を実施してるとはいえ、災害のリスクを若干下げているだけで決定的な工事では決していないと思います。また、津波と高潮による水災害にあまりに無防備な感じがするのは私だけではないと思いますがいかがでしょうか。		

29	地震に強い建物。普通の鉄筋コンクリート造り（簡素で良い）。	新庁舎は、国の官庁施設の総合耐震・対津波計画基準に基づき、大地震動後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標としており、人命の安全確保に加えて、十分な機能確保が図られるものとするところから、高い耐震性を確保できる構造形式について、費用等の比較検討を行い適正な部分を精査しながら、可能な限り事業費の縮減を図ります。	①
30	地震に強い建物。		
31	経費節減で簡素な建物で良いと思います。（鉄筋コンクリート）		
32	建築概要について、プレキャストPC造でないと新庁舎は建設が不可能なのか。建築費用が高いのではないか。見かけは近代的になるようですが、50億円もかける必要があるのか。一般的な工法で免震仕様にすることは不可能なのか。		
33	RCや鉄骨ではなく、木造が良いと思います。	現状の法規・技術では、新庁舎の建物規模を木造とすることは難しい状況です。	②

3. わかりやすく使いやすい庁舎

No.	意 見	市の考え方	対応
1	1階に市民生活に必要なすべての機能を持たせる。(あっちこっち行かなくてすむようにわかりやすく)。2階に多目的スペース。	1、2階に窓口機能を集約して、特に、1階には、市民の利用の多い部署を配置するとともに、市民活動の場や旭の歴史等を学ぶ場なども配置して、来庁者が気軽に立ち寄れるように計画します。	①
2	庁舎内の動線はできるだけ短い距離で、それぞれの窓口で用事がすまされるよう、コンパクトにまとめてほしい。(身体障害者や老人には移動距離が短い程うれしい)	また、エレベーターや階段の位置、案内サインの設置などで、来庁者が短い距離で移動できるように計画します。	
3	駐車スペースは広くしてほしい。廊下も広めにしてほしい。バリアフリー。	駐車スペースは、国の基準を参考にして、特に、新庁舎出入口の付近には、乗降スペースを持った多目的駐車場を計画します。通路幅は、車椅子やベビーカーを利用する方が、安全に通行できるように段差や勾配の少ない、ゆとりのある広さを計画します。	①
4	バリアフリー。	また、十分な広さを持った多目的トイレも計画します。	
5	バリアフリー、トイレスペース、駐車場も広めに。		
6	受付等にロボット(あさP)の導入。人件費の節減と、新しさのアピール。	全ての人が安心して快適に利用できるように、ロボットやスマートフォンによる誘導などの技術導入を検討します。	①
7	ペッパークンを置く。わかりやすい窓口案内。	また、来庁者の動線、目線に考慮して、見やすく分りやすい案内サインを計画します。	
8	来庁者がわかりやすい案内標識等の設置。		

4. 防災・安全対策

No.	意 見	市の考え方	対応
1	災害対策室について、北朝鮮の攻撃が現実的となりつつあります。ぜひ新庁舎の地下に核シェルターを設置できるスペースを確保しておいてほしい。(空調などの設備は国から予算がついてから、後施工で良いと思います。)	新庁舎の地下駐車場及び1階フロアの市民活動エリアなどは、有事の際に一時的な避難スペースとして機能転換できるように計画します。	①
2	地下を避難場所に行っているが、熊本や常総市の水害などを見るととも地下の閉ざされた空間は避難に適しているとは到底思えない。まして地下に押し込めるようなことは実際不可能であり、市民は静止も聞かずに上層の明るい場所へ絶対に避難すると思います。そのためにも上層の5階などは大きな空間が絶対必要とされるでしょう。		
3	災害時に、上水道設備が損傷した場合に備えた給水対策が取られているのか不明。	給水設備は、受水槽の設置を計画しており、断水時には、受水槽の水が利用できるように計画します。	①
4	防災拠点として機能するには、非常時における上・下水道の使用が避難民にとって不可欠であると考えます。そこで、新庁舎建設にあたり、災害時においても常用可能な上下水道システムの充実と施設の耐震化対策に配慮していただきたい。	また、新庁舎内に飲用水(ペットボトル)を保管できるスペースを計画します。 下水道が使用できない場合の非常用排水槽を設けて、災害時に一定量の排水を貯留できるように計画します。	
5	大型の受水槽等により、被災時の水の確保をする。		
6	構造について、免震構造は高価なだけなので防災センターなどの重要な施設のみとし、他は耐震構造とし建設費をおさえるようにお願いします。	大規模災害時は、周辺住民の一時的な避難スペースや災害対策本部の設置、ボランティアの受入れなど、新庁舎全体で災害に向き合う計画としており、それらの機能を維持するための構造を検討します。	①
7	BCPについて、緊急時排水貯留槽と雨水(井水)貯留槽が近接されているが(実施設計では隣接することはないと思われるが)地震等による地下ピット壁体の損傷などにより、それらを隣接するのは相応しくないのでは。 BCP計画策定にあたり、災害時の水利用は職員のみ、または被災市民も含むのかで、上水ストック水(受水槽、高置水槽)容量が異なるが、こういった計画であるか。 例)職員のみの場合、災害時上水使用量=30×450人×3日分=4,050ℓ(最低限)となり、受水槽及び高置水槽ストック水で賄える。(断水により、上水供給が無いと想定して)しかし、市民利用を考慮すると、雨水または地下水を原水とする膜処理等による造水コスト及び緊急時の確実な利用のための保守・管理コストが発生するため、あまり現実的ではないと考える。	備蓄水槽と非常用排水槽の位置は、配管経路や災害時の損傷リスクを考慮して計画します。 災害時の給水対策は、受水槽の水利用と新庁舎内に100人×3日分の水を確保するとともに、旭文化の杜公園と連携して計画します。	①

8	地球温暖化対策を踏まえ、また非常災害時における復旧拠点として使用する市庁舎の電力供給は、極力太陽光発電や風力発電を併用し、災害に強い設備としてほしい。(太陽光のみではバランスが悪い)	風力発電設備は、設置費用や設備維持のためのメンテナンス費用が過大となるうえに、電力の安定供給が難しいことから計画しておりません。	②
9	1階のバックアップ機材、備蓄倉庫、ソーラーパネル、蓄電池。	停電時における新庁舎内の重要設備の電源として、非常用発電機設備を計画します。また、適正な規模の太陽光発電設備や備蓄スペースを計画します。	②
10	太陽光パネル等で蓄電して、防災時に役立つ庁舎が良いと思う。	蓄電池の設置は、設置費用や設備維持のためのメンテナンス費用が過大となることから計画しておりません。	
11	一時は、これみよがしにエントランス中央に太陽光発電のディスプレイを設置されている建物も増えてきましたが、昨今では控えめに設置されているものも雰囲気を大事にしているのではと感じます。しかしながら東日本大震災の被災地でもある旭市は、災害時にも市民が安心して避難できる建物でもある事が重要であり、自然の力を利用したシステムの導入も必要と感じます。公共の学校や施設だけではなく、水道・電気が遮断されても最小限の供給ができる建物となる事が、市民の窓口となる庁舎のあるべき姿ではと考えます。経験を生かした市の建物を期待しております。	来庁者が気軽に利用できる新庁舎を目指すとともに、災害時には、行政機能も維持できる構造や非常用発電機設備、また、受水槽での水利用などを計画します。	①
12	太陽光発電と非常用発電機を併用し、被災時に対応できる設備にする。	災害時に、太陽光発電設備と非常用発電機設備が連携できるように計画します。	①

5. 生涯コストを抑えた施設整備

No.	意 見	市の考え方	対応
1	建築コストのかからない材料の利用。	建材の選定は、既製品やユニット製品の積極利用による建設コストの縮減を図ります。	①
2	庁舎建設が完了してからの日常の維持管理費、将来の改修費など、新庁舎に係るトータルコストが明らかにされていません。市民が将来にわたって負担しなければならないコストについては、現庁舎で負担しているコストとの比較を含めて、建設計画の段階から検討・公表の上、市庁舎整備を進められるようお願いいたします。	基本設計から実施設計へと段階を踏んでいく中で、新庁舎の生涯にかかる諸費用を十分に検討して計画します。	①
3	給水設備について、2系統給水を計画されているようですが、建設時のコスト、維持管理のコスト、更新時のコストも全て2系統分のコストがかかります。井水・雨水系統では、配管のつまりや臭気の発生なども懸念されます。水道料金との比較になると思いますが、2系統給水の可否について検討願います。		
4	省エネ設計、低コスト、税金の無駄使いだけは絶対にやめてほしい。	利便性や安全性などに配慮したうえで、極力簡素で工事費が抑えられるように計画します。 また、新庁舎の維持管理を踏まえて、必要な機能、施設を精査して、将来の人口減少に対応できるように、機能的で柔軟性の高い新庁舎を計画します。	①
5	工事金額が高くなる事があると思いますので、なるべく単純なものにした方が良く思う。		
6	過大施設は財政悪化の原因となる。将来、当市でも人口の減少が考えられる。そうした変化にも、しっかりと順応した建物であることを望みます。施設維持管理には財政負担が伴うため、過大施設は財政悪化を招く原因となる。		
7	受水槽について、上水受水槽（地上設置）は、長寿命化、保温性、景観、低LCCCO2、エコマテリアル等踏まえて木製受水槽の採用はいいかがか。ただし構造上、スクエアのデザインは不可能となる。	受水槽は、木製受水槽を含めて、メンテナンスのしやすさや安全性などに配慮して計画します。	①

8	2階部分屋上に太陽光発電システム設置となっているが、2階より上層階屋上部分にも太陽光パネルを設置して、さらに省エネ化を図るべきではないか。	自然光や自然通風による換気など、自然の力を効率よく取り入れて、生涯コストの削減と環境負荷の少ない新庁舎を計画します。 太陽光発電設備は、設置費用や設備維持のためのメンテナンス費用を考慮して、設置容量を20kWで計画します。	①
9	屋上の太陽光発電装置の設置について、極力自家発電によって庁舎の電気コストダウンを計る。		
10	環境が良く緑が多い。太陽エネルギーを利用。省エネの建物。		
11	太陽エネルギーを利用した省エネの建物にしてみたい。		
12	節電のために、太陽エネルギーを利用してみたい。		
13	建物の屋根、もしくは駐車スペースの屋根に、全面に再生可能エネルギーである太陽光パネルを設置。		
14	省エネの建物。太陽光発電の利用。		
15	地球温暖化対策として、環境に優しいクリーンエネルギー(太陽光発電等)を利用してみたい。		
16	省エネを具体化した建物。		
17	地球温暖化対策及び維持費削減のため環境にやさしいクリーンエネルギー(太陽光発電等)を導入してみたい。		
18	新しく庁舎を建て替えるのであれば、時代に合ったエコ機能を取り入れ、できるだけ燃料や電気代を使用しない(維持費が掛からない)次世代型の庁舎にしてほしいと考えます。例えば、光を取り入れ、電気代を削減できる天窓を増やしたり、室内の空調の管理がしやすい自然換気システムを取り入れるなど、他市町村のモデルケースとなるようなエコロジー機能を多く取り入れるべきだと考えます。		
19	自然光を多く取り込んで、環境にやさしい市庁舎にして欲しいです。自然光を取り込む事により省エネにもなると思います。		
20	市民が利用する場所では、爽やかな自然の風と明るい自然の日差しを取り込み、人と環境にやさしい市庁舎にしてほしいです。		
21	再生エネルギーを活用して下さい。		

22	太陽光発電パネルのみによるシステムではなく、太陽光発電の他に換気や採光などを一体化して、自立して使用可能なシステムを導入して、災害時にも快適に利用できるようにしてほしい。	災害時でも、自立して採光や換気ができるように計画します。 自然換気用の開口は、職員で容易に開閉できる仕様で、室内への影響を抑えるように計画します。	①
23	自然換気利用は良いと思われるが、荒天時(台風接近時など)は、これをストップする設備となっているか不明。荒天時強風には強い塩分が含まれており、長期間には屋内設備に障害が発生するのではないか。		
24	FreeWifiの設置。	FreeWifiの設置を計画します。	①
25	非常用発電機設備について、発災時後、復電まで又は燃料補給までの期間が3日は短すぎる感じがします。燃料の補給体制と合わせて運転可能時間について検討願います。	国が示す業務継続の基本方針では、災害直後の72時間(3日)までは、人命に係る災害緊急業務を最優先せざるを得ないため、帰宅困難者の対応や二次災害に巻き込まれることを防止する措置が求められていることなどから、旭市地域防災計画に基づき、電気、飲料水、食料の備蓄を3日以上として計画します。なお、燃料については、3日分の備蓄とあわせて、事業者との補給体制を協定により備えています。	②
26	雨水利用について、雨水利用は一般的に認識されているものではなく、市民や一部市議会議員の中には過剰設備と捉える向きも多いと考える。そこで、「雨水の利用の推進に関する法律」等により、官庁施設では設置が必要(目標)である旨を理解頂き、且つBCP及び節水の観点でも重要であることを周知し、アカウンタビリティを果たすことが重要であると考ええる。 雨水集水場所は屋上となり、より清浄な集水確保のため、屋上部での鳥害(糞など)を防止する措置が必要である。また、海岸までの距離も比較的近いことから台風及び夏季の南風等により塩化物イオンを多く含むことも予想されるため、設備(配管等)の長寿命化を考慮した資材の選定及び運用方法(初期降雨排除等)が必要と考える。	雨水利用については、水資源の有効な利用を図り、あわせて下水道、河川などへの雨水の集中的な流出の抑制に寄与することを目的としています。 新庁舎では、ろ過装置の設置費用や設備維持のためのメンテナンス費用を考慮して、雨水・井水は雑用水としての利用を計画します。設備の長寿命化については、立地環境や費用面を考慮して検討します。	①

6. 新しいまちづくりの拠点

No.	意 見	市の考え方	対応
1	1階フロアの平面計画について、歴史等を学ぶ場は、活用の使途が限られるようなイメージがあるので、市民が活動(各種団体の会議等に使用)できるスペースとして活用してはどうか。有償で貸し出して、庁舎の維持管理等の財源に充ててもいいと思う。また期日前投票や時限的に受付する窓口(税の申告、児童手当の現況届や臨時福祉給付金のような受付窓口)などを設けることも可能ではないかと思う。	1階の市民活動の場や旭の歴史等を学ぶ場は、各種発表会や展示会、市政情報などを発信する場としていますが、必要に応じて幅広く利用できるように計画します。	①
2	新庁舎が、単に行政事務を行うための建物でなくイベントホールを設け、市民が集いいつでも利用できる庁舎を建設してもらいたい。		
3	農水関係の情報発信等できるスペースを作ってほしい。		
4	分かり易く使いやすい庁舎について、目指す姿や利用しやすい窓口はもちろんですが、加えて旭らしさを感じられる空間を設けてほしい。きれいに整理されているだけで市民と建物が身近なものになっているのだろうか。旭市の食と緑の豊かさを感じられるような空間を創造してほしい。例えば、施設内に緑化スペースを所どころ設けて、旭の食(農畜産、水産加工)を味わえるスペースがあってもいいのではないかと。全国屈指の農業地帯、独創性に期待します。		
5	休憩スペースが、1階に設けられることは良いと思う。	1階の市民憩いの場は、周囲に出入りのできる開口を設けて、外部テラスと一体的な利用とすることで開放感の感じられるスペースを計画します。	①
6	1階と5階に市民の憩いの場としてスペースが設けられていますが、何か狭そうな空間であり、もっと開放感のある場を提供することができないものでしょうか。	5階の展望室は、市内を眺望できるとともに休憩スペースを計画します。	
7	交流機能について、千葉県庁や群馬県庁などは、1番上の階に展望スペースがあります。新市役所でも展望スペースを確保し、市民の憩いに資するようにしてほしい。(防災スペースや広報スペースなど多目的でも良いのではないのでしょうか。)		
8	展望スペースを大きくしてほしい。		

9	市内全域を見渡せる高さ30m程度の展望スペース。	市内を見渡せるように、事業費を踏まえて検討します。	①
10	1階と5階フロアに軽食ができる休憩スペースを計画していますので、そこで、コンビニを設置し、市民、職員が軽食、飲料水、日常品等を購入できる利便性のあるスペースを検討してもらいたい。これにより、賃貸収入と災害時協定を結ぶことでの避難民への即時食料等の補てんが可能となります。	市民憩いの場として、1階と5階に軽食ができる休憩スペースを計画しますが、新庁舎のスペースや事業費を踏まえて、コンビニや売店の設置は計画しておりません。	②
11	庁舎内に道の駅みたいな売店を設置する。		
12	市民のふれあいの場として親しまれる庁舎として、ちょっとした休憩スペースが1階に設けられるのはよいと思う。ただし、5階の休憩スペースは議場や各種関係設備室等があり、議会中の騒音や保安体制上適さないのではないか。また、5階建てでは思うような眺望は、望めないのではないか。	防犯対策として、監視カメラの設置や議場と展望室の間の遮音性確保、設備室の施錠などを計画します。	②
13	なにより職員はもちろん市民が利用するにあたり、ストレスを感じないような外観(緑地)で、市民が気軽に利用できるような基本設計であってほしいと願います。	来庁者、職員が利用しやすいように、わかりやすい建物構成を計画します。 外観は、質素でシンプルなデザインで、旭の景観に馴染む圧迫感のない形態を計画します。 内観は、一部に木材を使用して、安らぎのある空間を計画します。	①
14	デザインは、シンプル・イズ・ベストで設計して下さい。		
15	子どもからお年寄りまでが集まれるコミュニティの併設。教室、会議室、運動施設、託児所など。	1階に市民活動の場をはじめ、旭の歴史等を学ぶ場や市民憩いの場、2階には子育て支援センター・ハニカムの設置を計画します。 施設整備は、全ての人が安心して快適に利用できるように計画します。	①
16	子ども・老人が行きやすい施設にしてほしい。		

17	明るく親しみやすい、市民が気軽に入れるような開かれた庁舎にしていきたいと思います。イメージとしては、建物の中心が吹き抜けた空間になっており、天窓(トップライト)から光が入るようなものが望ましいです。太陽光発電なども良いですが、高コストになりがちなので、自然の光を取り入れられる天窓(トップライト)を是非導入してください。	1、2階に吹き抜けを設けて、自然光を効果的に取り入れるとともに、公園側(西側)にも出入口を設けることで、公園との繋がりをもたせて、気軽に利用できるように計画します。天窓は、費用や安全性を含めて検討します。	①
18	屋上に大きな天窓を設けて光を取り入れて、開放的にできたらと思う。(換気もできたら風が抜けて良いかもしれません。)		
19	ガラスを多く採用しているようなので、屋根にも採用してみてもいかがでしょうか。太陽の自然エネルギーを最優先すべきです。その為、天窓を多く取入れる。		
20	開放感があるよう吹き抜けを設けて、自然光の入る天窓がほしい。庁舎を明るくするため。		
21	新庁舎の屋根に天窓を設置してほしい。室内に太陽の光を取り込む事ができ、明るい室内空間を設けられると考えたため。日中は照明いらずで省エネにもつながると思う。外観の意匠面においては、天窓をライトアップする事で建物のシンボリックな要素が得られ、綺麗なカッコいい外観になると思う。		
22	旧庁舎はエントランスホールが重々しい雰囲気、利用者にとってはいやおう無く緊張します。各地で建直し、もしくは新築されている現代の庁舎のエントランスは開放感があり、自然に足を踏み入れる事ができる雰囲気を作り出しているように感じます。外からの延長線上に室内空間があるように意図的に設計されているのかもしれませんが。植栽があり、そこに自然光が降り注ぎ木目を生かした建具やカウンターなどがそう思わせます。		
23	光を多く取り入れ、明るい建物が良いと思います。		
24	窓を大きく取り、明るくする。		
25	明るく利便性のいい建物にしてほしい。		
26	庁舎は明るく開放的な雰囲気。		

7. 工事計画

No.	意 見	市の考え方	対応
1	建設スケジュールでは完成を平成32年(2020年)としているが、2020年はオリンピック開催年であり、ここまでの期間は最も建設市場が高騰すると見られている。建設をこの年までに完成させるという急ぐ理由はないのではないか。建設開始をオリンピック終了後に数年先送りし、少しでも建設コストを軽減すべきではないか。合併特例債は被災地として延長活用可能になっているのではないか。	建設費の高騰は、その時々々の社会状況に大きく左右されるため、今後の推移を想定することは難しいものと考えます。 新庁舎建設は、現本庁舎の老朽化や耐震不足などから緊急性を要するものと考えますので、本案で想定したスケジュールで進めていきます。 合併特例債の特例期間は、平成37年度までです。	②
2	地震被災地ですので、地盤改良工事は、しっかりとお願いいたします。	計画敷地の地質調査を実施して、建物の不同沈下や液状化などへの検証・対策を行います。	①
3	県内九十九里沿岸地域は、天然ガスの流出する可能性のある地域です。上ガス対策について検討をお願いします。	関係機関などと十分な対策を行ったうえで、施工業者への注意喚起を徹底します。	①
4	概算事業費について、国土交通省官庁営繕部が公表している、国の庁舎整備における、平成30年度予算の平方メートル当たりの単価は、延べ面積15,000㎡程度の場合、24.578万円/㎡+防災対策(Ⅰ類)、免震、電気設備・機械設備(甲類)などの特殊要素となっており、これらの要素を考慮しても、市計画41万円/㎡は高すぎるのではないかと思います。 平成29年4月公表の基本計画時から平方メートル当たりの単価が、40万円/㎡→41万円/㎡と上昇しているほか、延床面積も11,700㎡→14,200㎡と大幅に増えています。庁舎建設費41万円/㎡×14,200㎡=58.22億円になります。基本計画からの増額分の財源はどのようにされるのか、建設コストのさらなる削減について検討をお願いします。	平成29年4月に策定した新庁舎建設基本計画で示した概算事業費の本体工事費約50億(40万円/㎡)は、他自治体の庁舎建設費を参考に算定したものです。 本案で示した41万円/㎡は、新庁舎建設基本計画から基本設計へと段階を踏んでいく中で、建築構造や関連設備などがより具体的になったものです。 今後も、建設コストや建設後の維持管理費用なども含めて、可能な限り事業費の縮減を図ります。 財源は、合併特例債の活用を主として、合併特例債の対象外事業(外構工事や什器購入など)については、庁舎整備基金として積立てた約21億円を充当する予定です。	①

8. その他

No.	意 見	市の考え方	対応
1	市内の建築、土木業者が力を合わせて施工し、低コストを目指し、自然のエネルギーを最大限利用し(太陽光、風力等)地震に強く災害時であっても市役所として支障のない建物であってほしいと思います。	施工者の選定方法は、施工品質の確保や建設費用の縮減とともに、建築構造の比較検討を行ないながら、より多くの参加業者が見込めることなども考慮して検討します。	①
2	可能な限りに於いて地元業者を使う。大手企業による独占を避けてほしい。地元の雇用を呼び起こす。		
3	市民のための施設ですので、建設関係をはじめ、地元の業者が参加協力できるような構造物施設を希望します。		
4	市内の土木業者が参加できるような入札方法。		
5	市内業者が参加できる入札方法の導入。		
6	建物本体工事には、地元の業者が十分参画できるようなシステムにし、大手企業の触手があまり及ばないような入札条件を提示してほしい。		
7	地元での入札に限定。		
8	地元の業者で入札すべき。		
9	庁舎建設は、地元業者に受注機会を。人口減少は労働者数減少となる、市経済はマイナスになる。庁舎建設に際しては、地元業者に受注機会を与え、地元経済を潤すことも必要と思います。		
10	建設にあたっては、地域の産業振興、雇用対策として地元の建設関連業者が参加できるような建物を望みます。		
11	周囲の景観としては、現在の立地予定地には樹木も少なく、また広大であるが当然のごとく緑化率を向上させると同時に、地元の技術を結集した形での協力業者を募り、後世に自慢のできる緑化設備にしてほしい。		
12	地元の建設関連業者(鉄筋業者、型枠業者、生コン業者他)が、参加協力できるような構造物の建物であることを望みます。		
13	公共事業が少ない時に、新聞によりますとプレキャスト工法と有りますが、型枠工事、鉄筋工事等が無くなるため、鉄筋コンクリート造を望みます。		
14	地元(旭市)の建設業者が参加できる、従来の鉄筋コンクリート造りの施工にしてもらいたい。		

15	東部図書館が廃止というニュースがありますが、そうであるならば、その場所を有効利用し、市議会会議室などの議会施設や防災備蓄などで活用してほしい。また、市役所の位置もその近傍に変更した方が良いのではないのでしょうか。	千葉県において、東部図書館の今後のあり方について検討を行っていますが、新庁舎建設は、現本庁舎の老朽化や耐震不足などから緊急性を要するものと考えますので、本案の計画で進めていきます。	②
----	---	---	---



郷土愛からつなぐ未来 ず〜っと大好きなまち旭

旭市新庁舎建設「基本設計」(案)

※本文中の画像はイメージ図であり、今後変更する場合があります。

平成30年2月1日

旭市

目次

1. 設計方針 《P1》

- (1) 6つの基本方針

2. 計画概要 《P2～P14》

- (1) 敷地概要
- (2) 建築概要
- (3) 配置計画
- (4) 平面計画
- (5) 立面計画
- (6) 断面計画
- (7) 構造計画

3. わかりやすく使いやすい庁舎 《P15～P19》

- (1) 目指す姿
- (2) 来庁者にとって利用しやすい窓口
- (3) 来庁者の利用動線に沿ったサイン計画

4. 防災・安全対策 《P20～P23》

- (1) 旭文化の杜公園と連携した防災拠点
- (2) 庁舎全体で災害に向き合う計画
- (3) 防災計画
- (4) セキュリティ計画

5. 生涯コストを抑えた施設整備 《P24～P27》

- (1) 長寿命庁舎を実現する建築技術
- (2) 環境計画
- (3) 電気設備計画
- (4) 空調換気設備計画
- (5) 給排水衛生設備計画

6. 新しいまちづくりの拠点 《P28～P32》

- (1) 市民の創造する意欲を盛り上げる場
- (2) 外観パース
- (3) 内観パース

7. 工事計画 《P33》

- (1) 概算事業費
- (2) スケジュール

1. 設計方針

(1) 6つの基本方針

旭市新庁舎建設基本計画に基づいた設計を行います。

①市民に開かれた庁舎

人にやさしく、わかりやすく、利用しやすい機能と安全性に配慮するとともに、市民のふれあいの場として親しまれる庁舎

②ユニバーサルデザイン※に対応した庁舎

すべての人が、安心して快適に利用できる庁舎

③住民自治の拠点となる庁舎

議会の独立性を保ちつつ、市民と行政が連携して、活発な市民の交流を促進する庁舎

④市民の安全・安心を支える庁舎

高度な耐震性や耐水性、防火性などの災害に対応できる機能を備え、地震や風水害などの災害時における防災拠点として機能する庁舎

⑤環境にやさしい庁舎

省資源・省エネルギー対策を図るため、それに配慮した設計と設備の導入を検討し、環境負荷の低減に配慮した庁舎

⑥行政需要の変化に対応できる庁舎

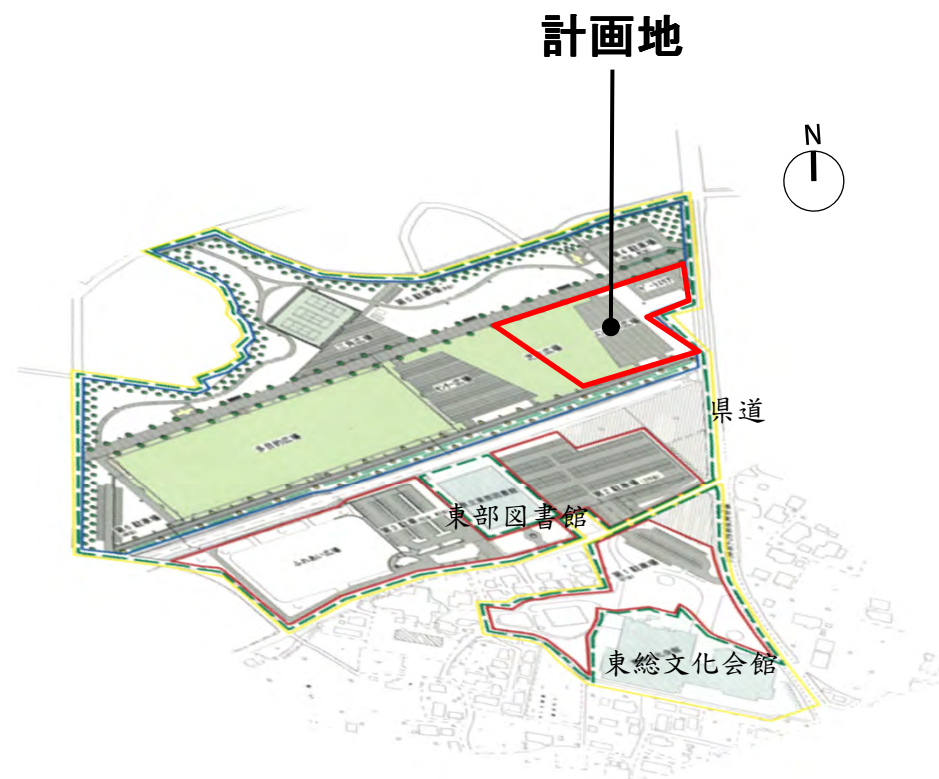
高度情報化や市民ニーズの多様化とともに、行政組織の変化などに対応できる機能的で柔軟性の高い庁舎

※ ユニバーサルデザイン＝障がいの有無や年齢・言語などに関わらず、すべての人に使いやすいようにつくられたもの。

2. 計画概要

(1) 敷地概要

- ・建設地 : 旭市二の2132番地
- ・敷地面積 : 9,864m²
- ・許容建蔽率 : 60%
- ・許容容積率 : 200%
- ・地域地区 : 都市計画区域
用途地域無指定
- ・防火指定 : 無(22条地域)※
- ・日影規制 : 無指定
- ・前面道路 : 主要地方道
旭停車場線12m



※ 22条地域＝建築基準法第22条の規定により、建築物の屋根は不燃材などを使わなければならない。

(2) 建築概要

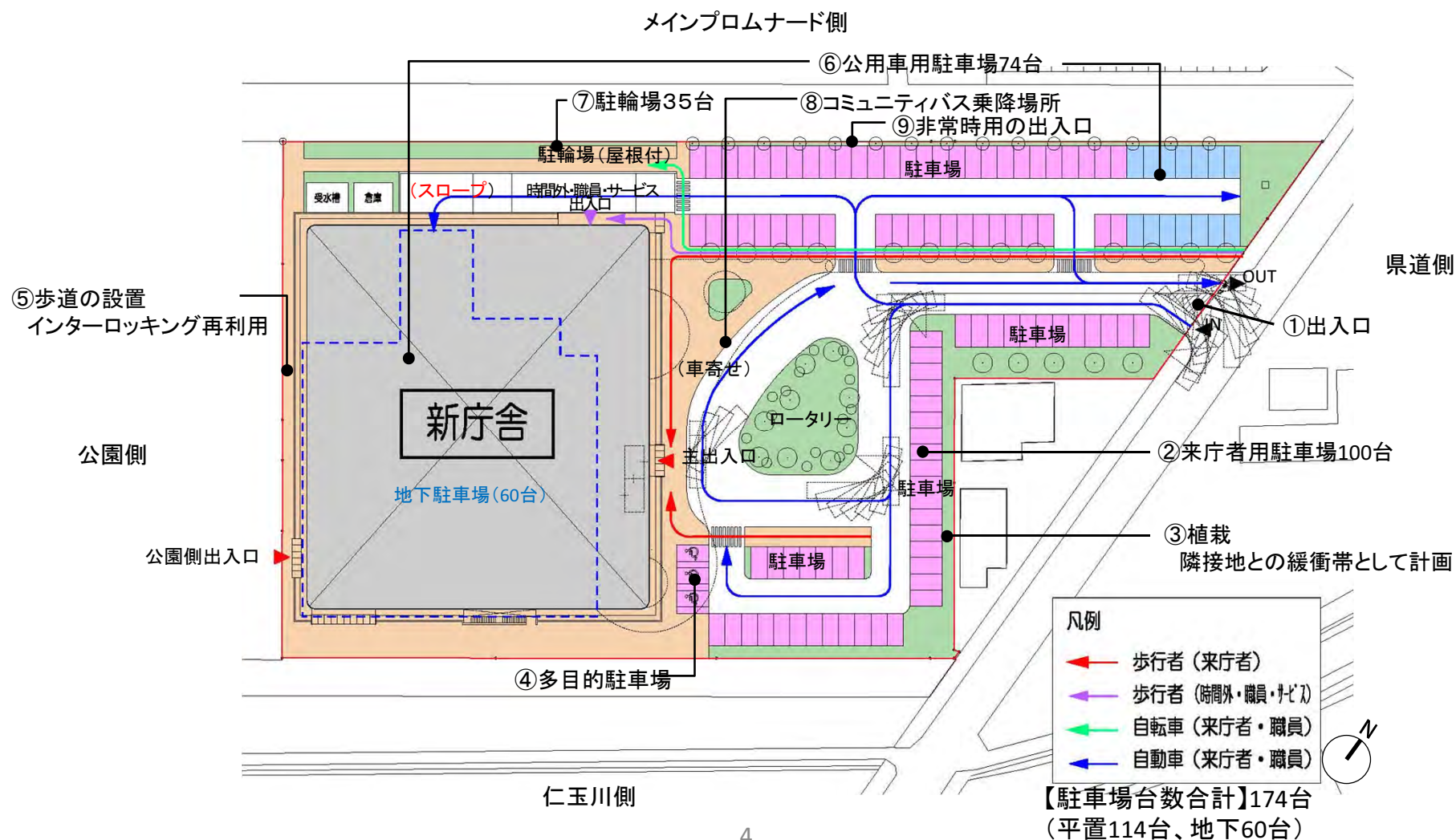
- ・主要用途 : 庁舎
- ・工事種別 : 新築
- ・建築種別 : 耐震構造
- ・構造種別 : 鉄骨造
- ・建築面積 : 約4,200m²
- ・延床面積 : 約13,700m²
- ・容積率 : 約110%
- ・階数 : 地上5階、地下1階
(5階は展望室、電気室)
- ・最高高さ : 約26m
- ・基礎種別 : 杭基礎
- ・昇降機 : エレベーター3台
- ・駐車台数 : 174台 (来庁者用100台、公用車用74台)
- ・駐輪台数 : 35台

面積表

階	床面積(m ²)	備考
5	約500	
4	約2, 200	
3	約2, 200	
2	約2, 600	
1	約3, 300	車寄庇を除く
地上階計	約10, 800	
地下	約2, 900	
合計	約13, 700	

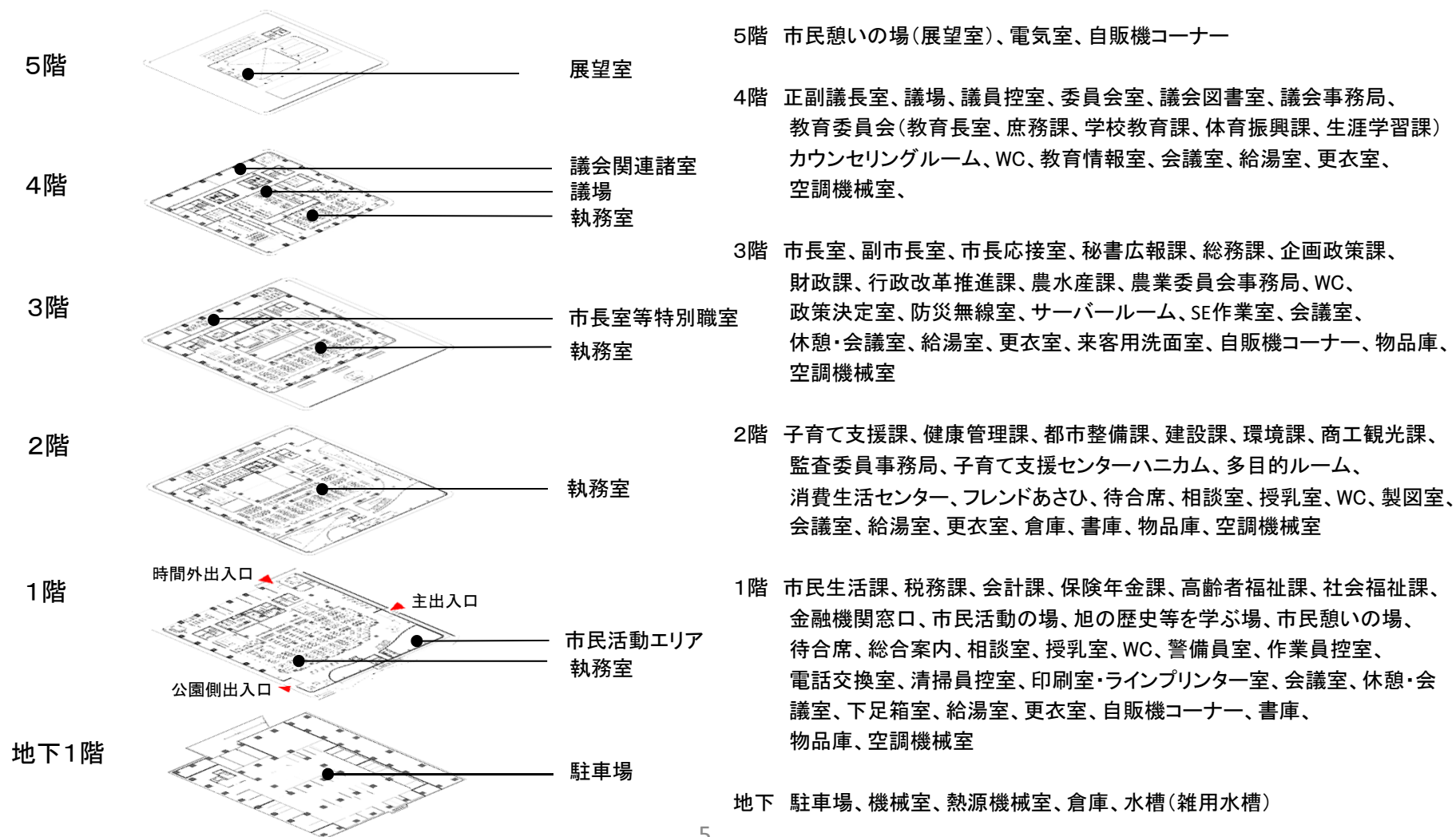
(3) 配置計画

新庁舎は、進入口から見て、わかりやすく、認識しやすい配置構成とし、旭文化の杜公園との連携に配慮した計画とします。



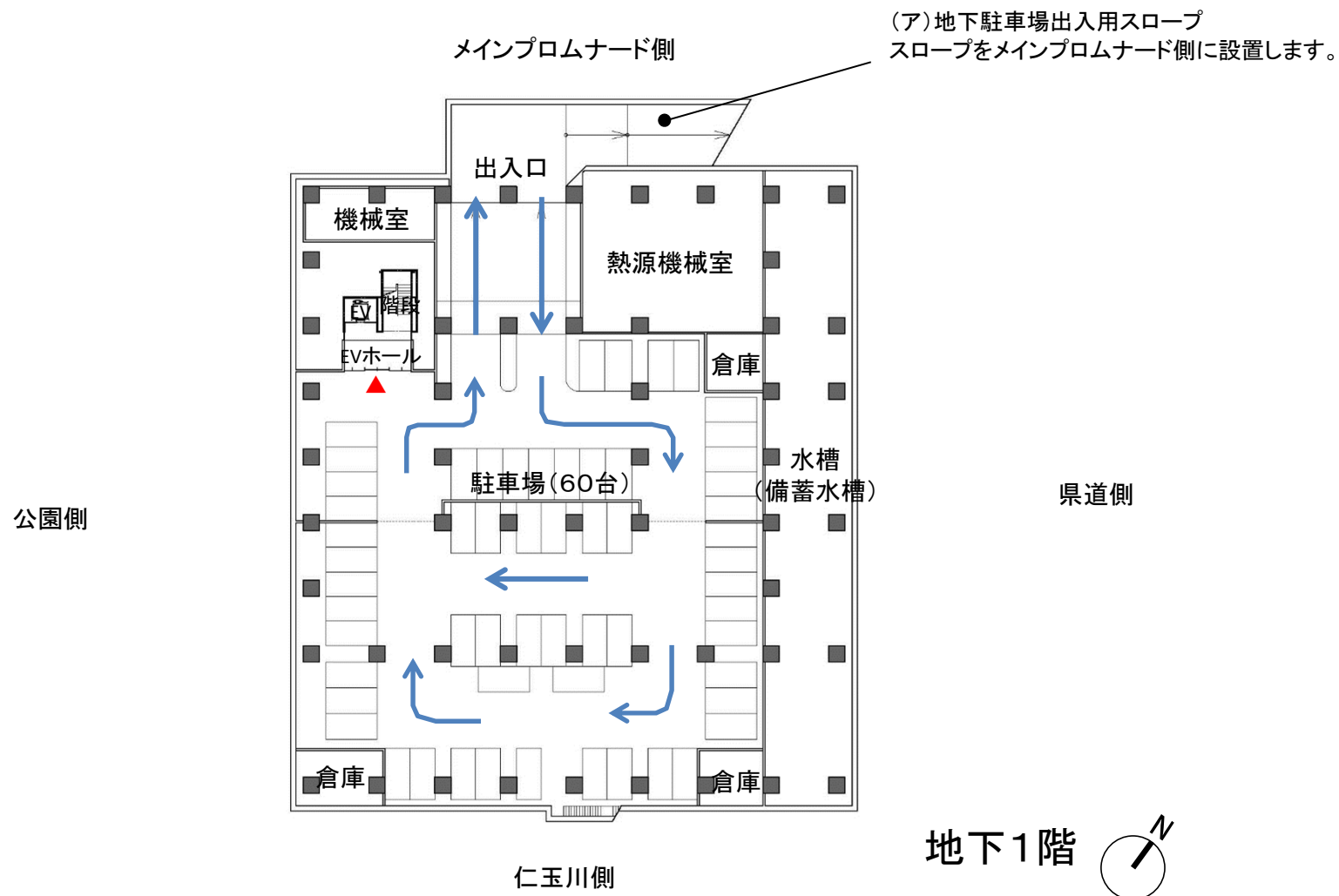
(4) 平面計画

全方位に開かれた開放的な低層階と、機能を集約したコンパクトな上層階で構成される計画とします。また、執務室は将来の組織変更などに柔軟に対応できる構造として計画します。



①地下1階

駐車場(60台)や熱源機械室、備蓄水槽などを設置します。また、駐車場の下のスペースに非常用排水槽を設置します。



市民の利用の多い部署や業務の連携度合を考慮して、市民生活課をはじめ、税務課や会計課、保険年金課を配置します。また、今後の高齢化に伴い、高齢者福祉課と社会福祉課を配置します。

メインプロムナード側に、警備員室を配置して、夜間・休日の出入口とします。

公園側

会計課に隣接して、来庁者が市税などを納付するための窓口を配置します。

(イ)主出入口
駐車場やバス乗降場所からのアクセス性に配慮して、県道側に配置します。

(ウ)総合案内
正面玄関から見やすい場所に配置します。

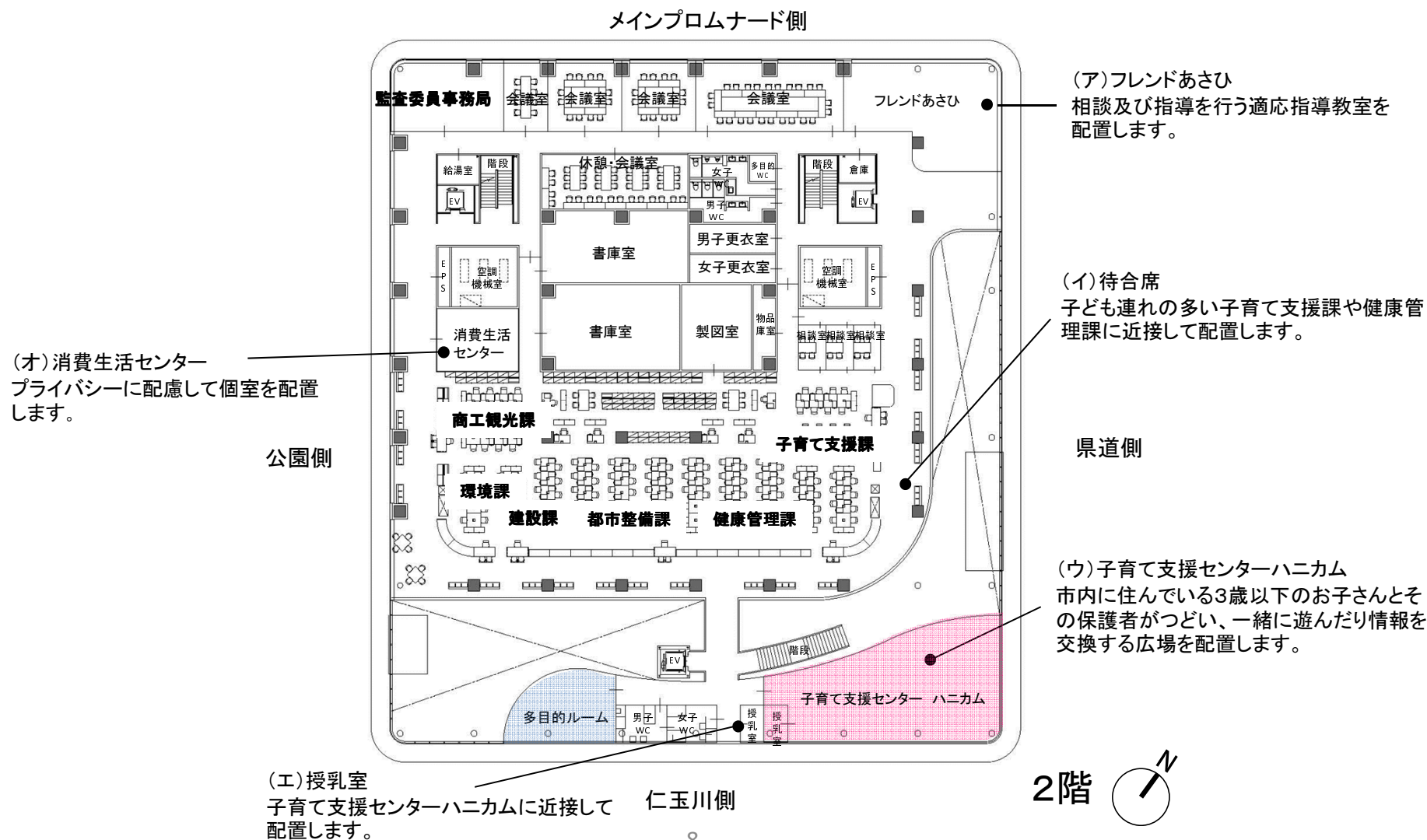
(エ)待合席
主出入口及び公園側出入口から近い場所に
それぞれ配置します。

仁玉川側

1 階 

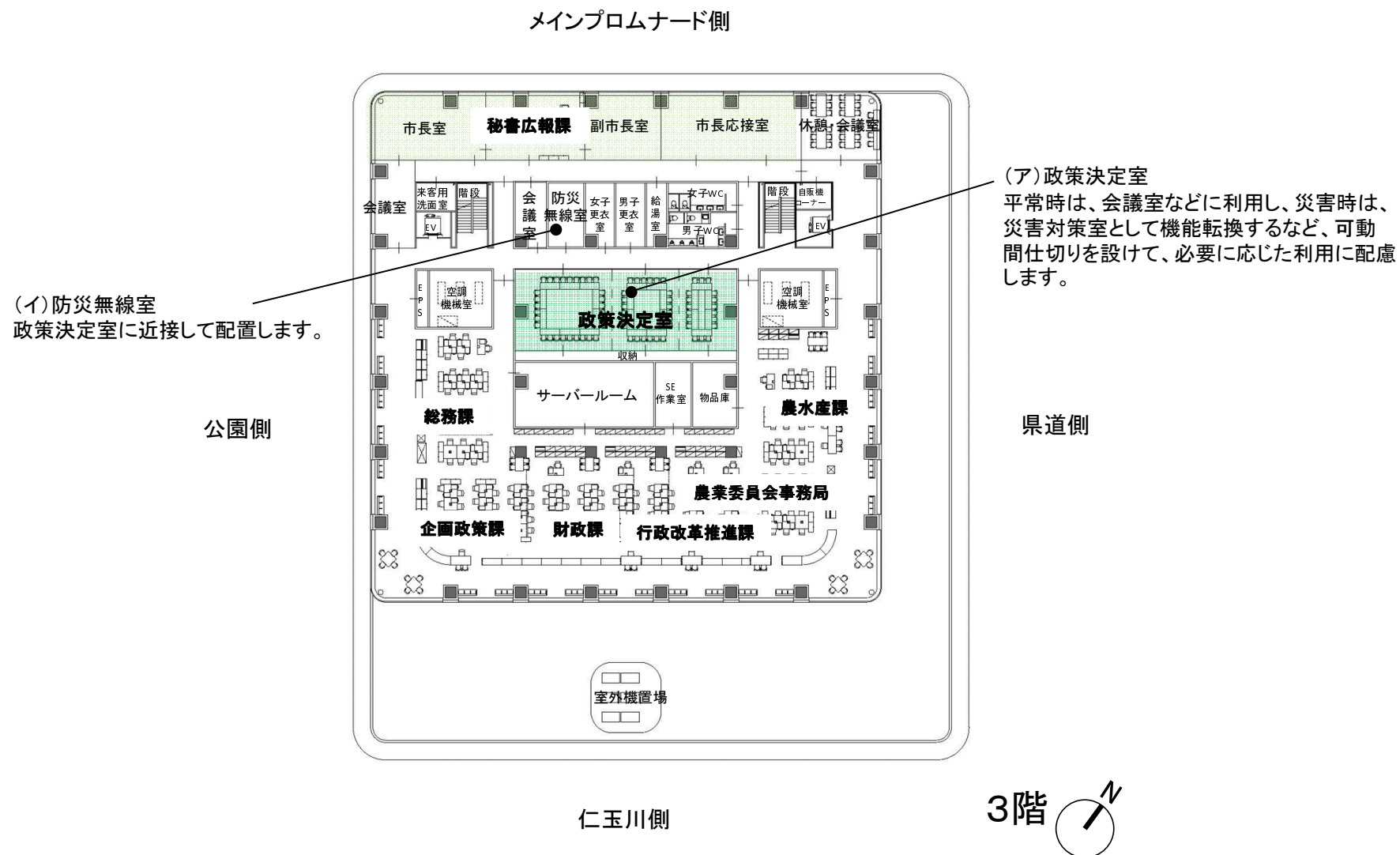
③2階フロア

市民の利用度と業務の連携度合を考慮して、子育て支援課と健康管理課を配置して、その隣に都市整備課と建設課、環境課を配置します。また、商工観光課と消費生活センターを配置して、メインプロムナード側に、監査委員事務局を配置します。



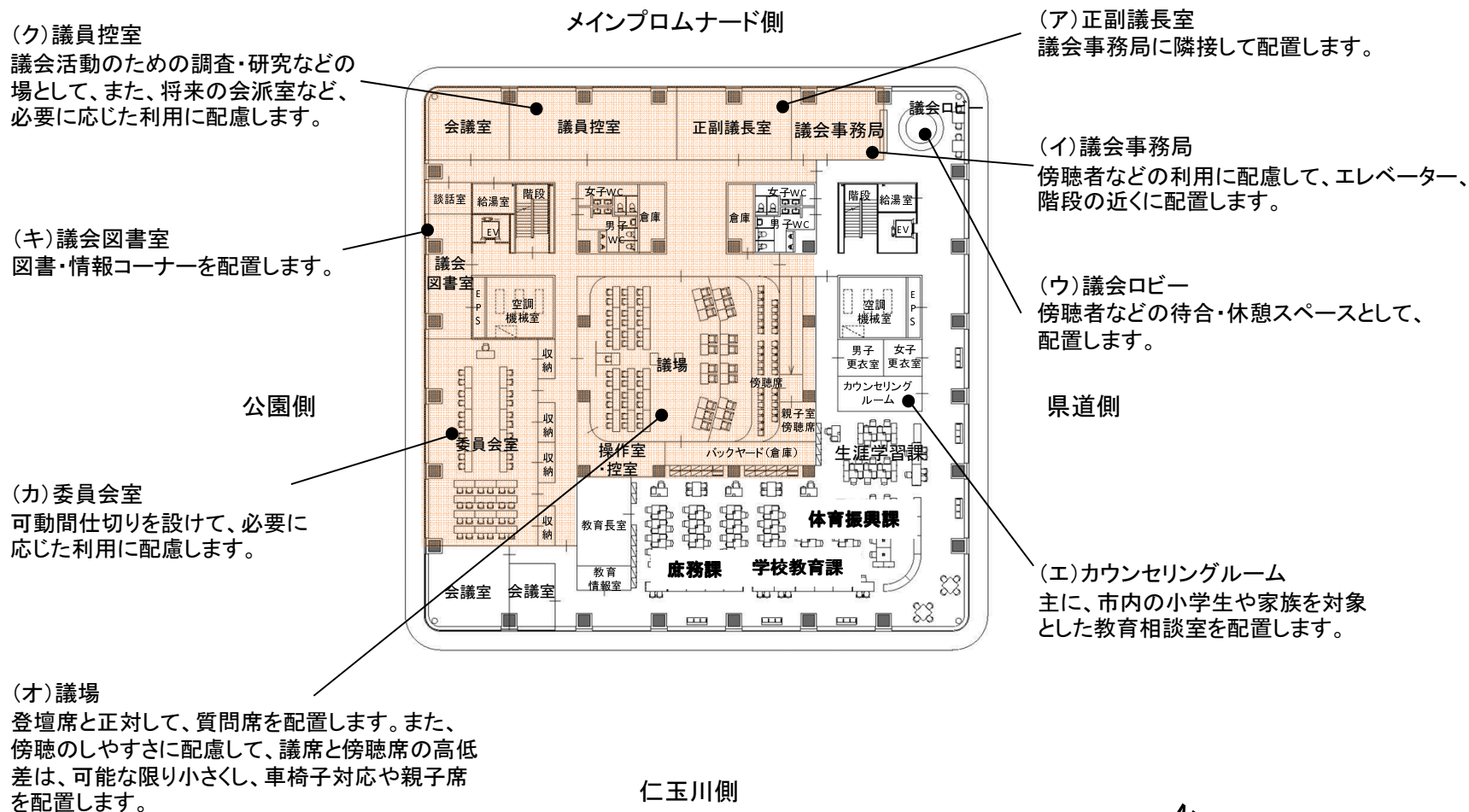
④3階フロア

市長室・副市長室をはじめ、秘書広報課や総務課、企画政策課、財政課、行政改革推進課を配置し、業務の連携度合を考慮して、農水産課と農業委員会事務局を配置します。



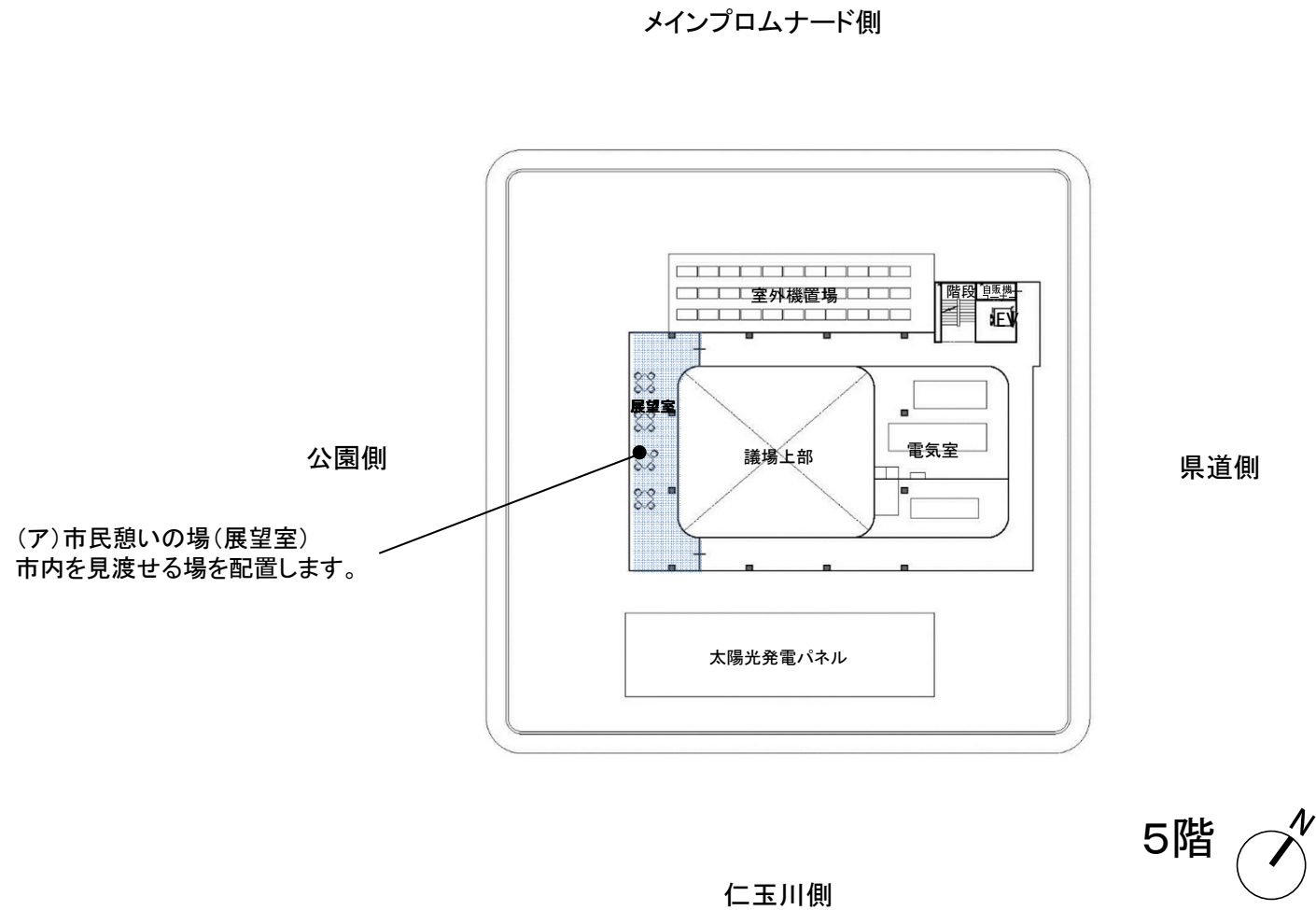
⑤4階フロア

議会関連諸室と教育委員会を配置します。議会関連諸室は、議会の独立性を保つため、議会機能と行政機能を区分して配置します。教育委員会は、教育長室をはじめ、庶務課や学校教育課、体育振興課、生涯学習課を配置します。



⑥5階フロア

議場の一部吹き抜けを利用して、回廊的な展望室を配置します。また、非常用発電機や受変電設備の電気室を配置します。



(5) 立面計画

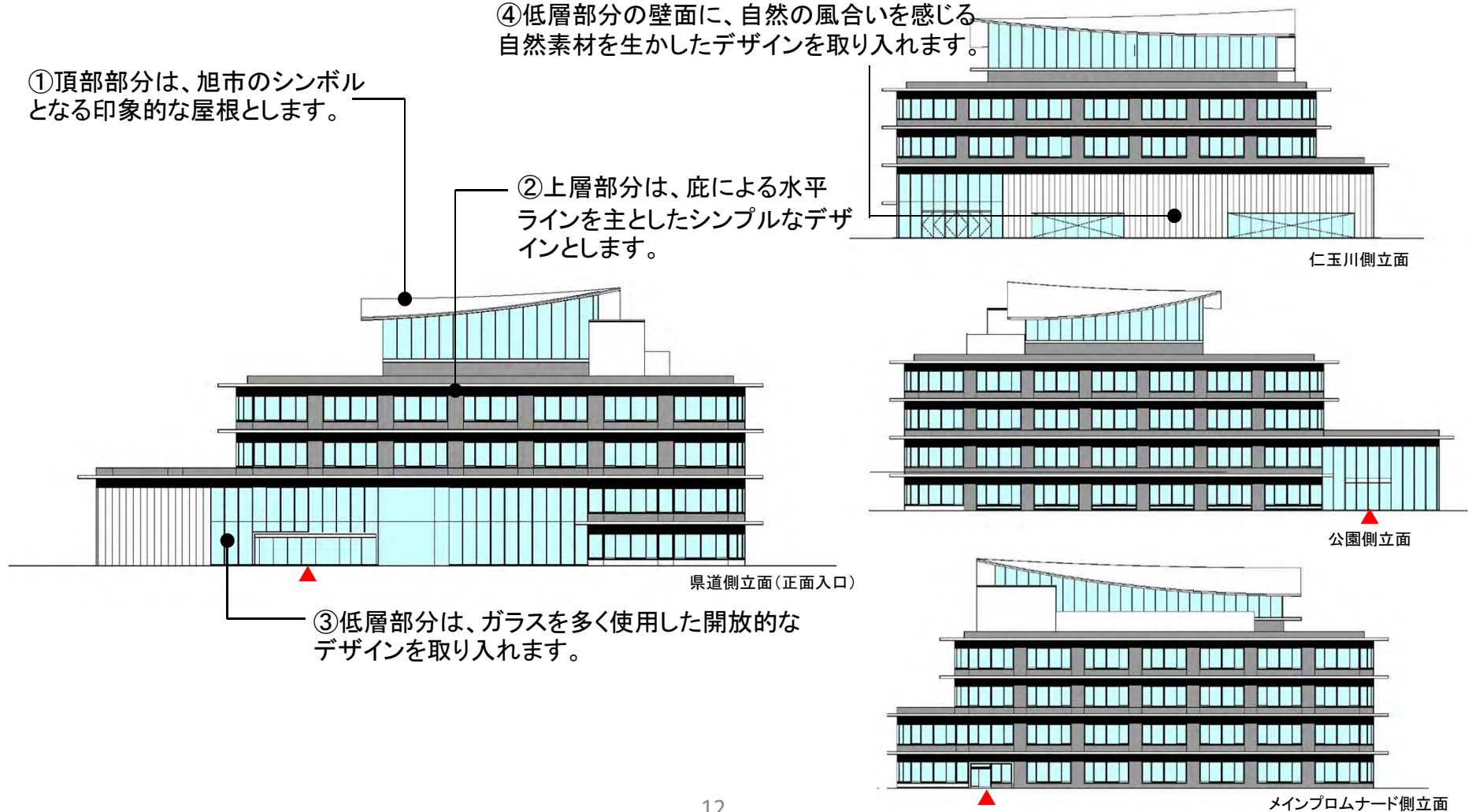
色彩の使い分けや壁面の区切りにより、周囲に圧迫感を与えないようなデザインとし、白・黒・自然色を基調とした、旭の景観に調和した計画とします。

①頂部部分は、旭市のシンボルとなる印象的な屋根とします。

④低層部分の壁面に、自然の風合いを感じる自然素材を生かしたデザインを取り入れます。

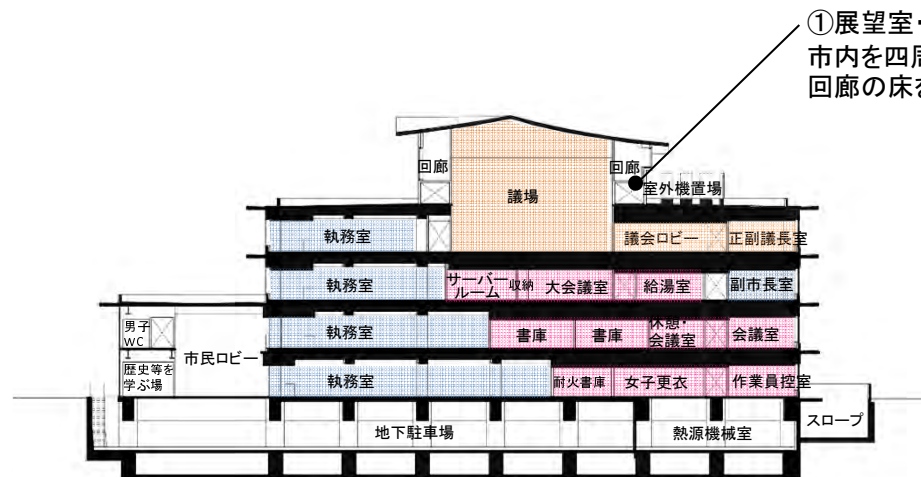
②上層部分は、底による水平ラインを主としたシンプルなデザインとします。

③低層部分は、ガラスを多く使用した開放的なデザインを取り入れます。

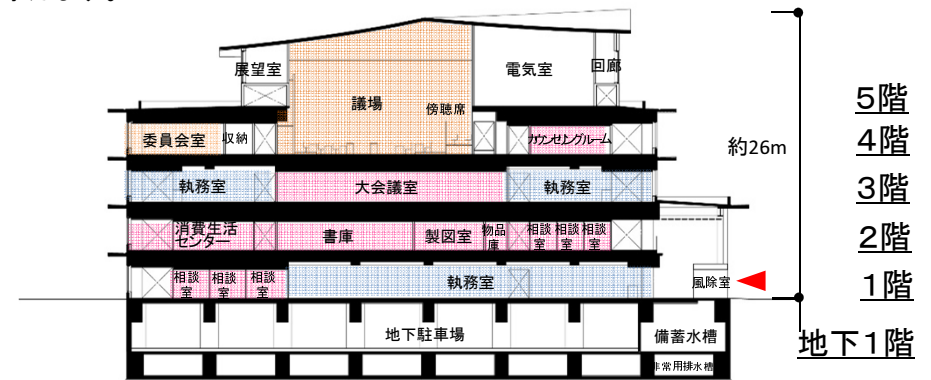


(6) 断面計画

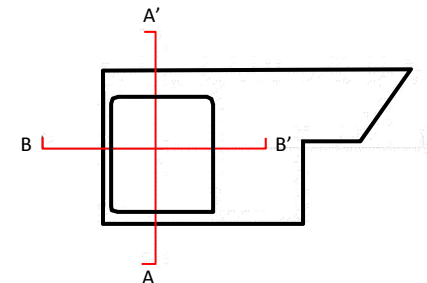
十分な空間を効率的かつ合理的に確保して、将来の機能更新や改修のしやすさに配慮した計画とします。



A(仁玉川側) - A'(メインプロムナード側)断面図

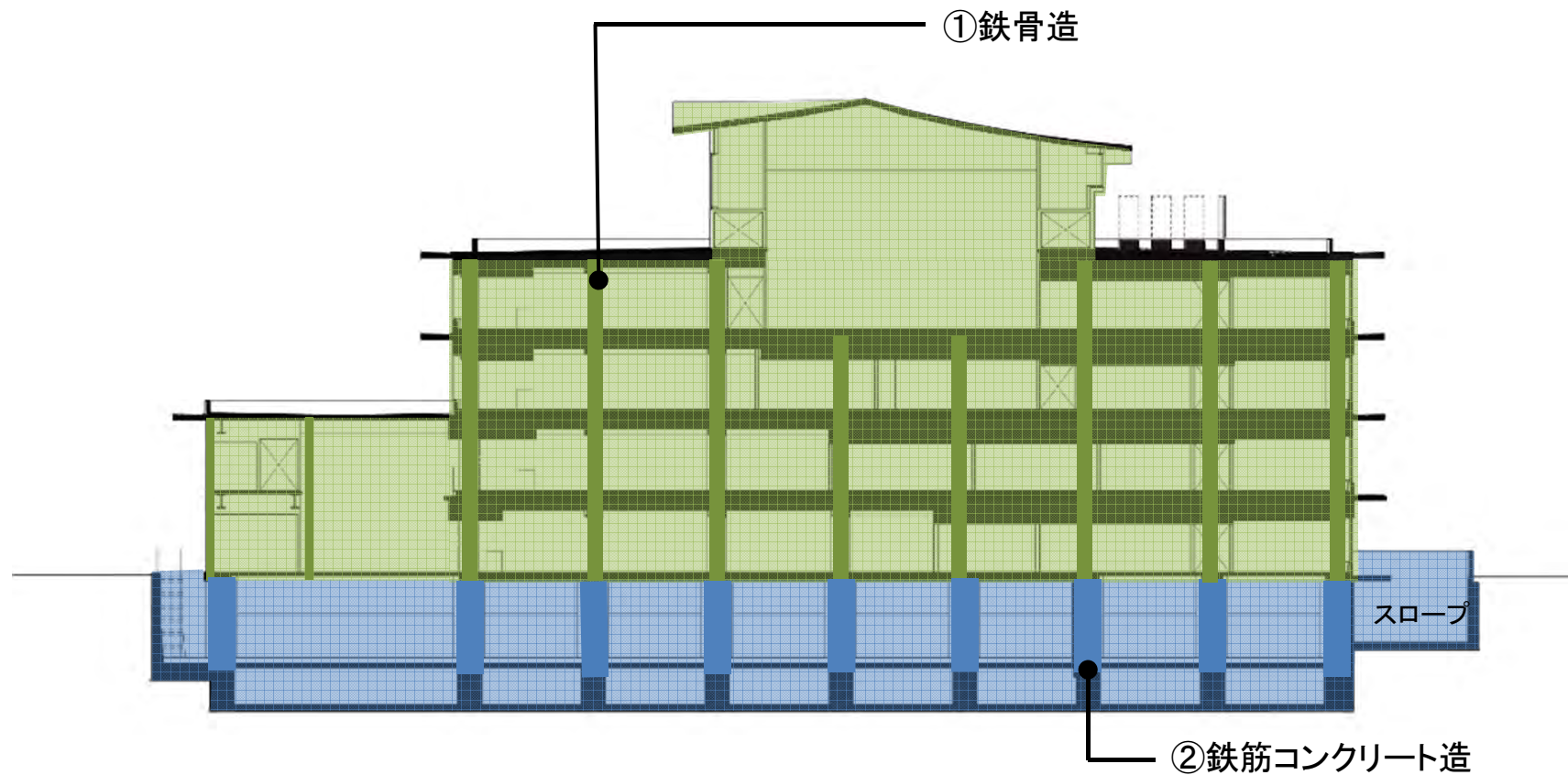


B(公園側) - B'(県道側)断面図



(7)構造計画

高度な耐震性や耐久性、防火性を備えるとともに、行政機能も維持できる、災害に強い合理的な構造体による安心・安全な庁舎を計画します。



3. わかりやすく使いやすい庁舎

(1) 目指す姿

市民にとって利用しやすい窓口、職員にとって働きやすい空間、利用する市民とそこで働く職員の双方にとって、機能的で快適、安全・安心な環境をつくり、より一層の市民サービスの向上と事務効率の向上につなげます。

市民にとって
利用しやすい窓口

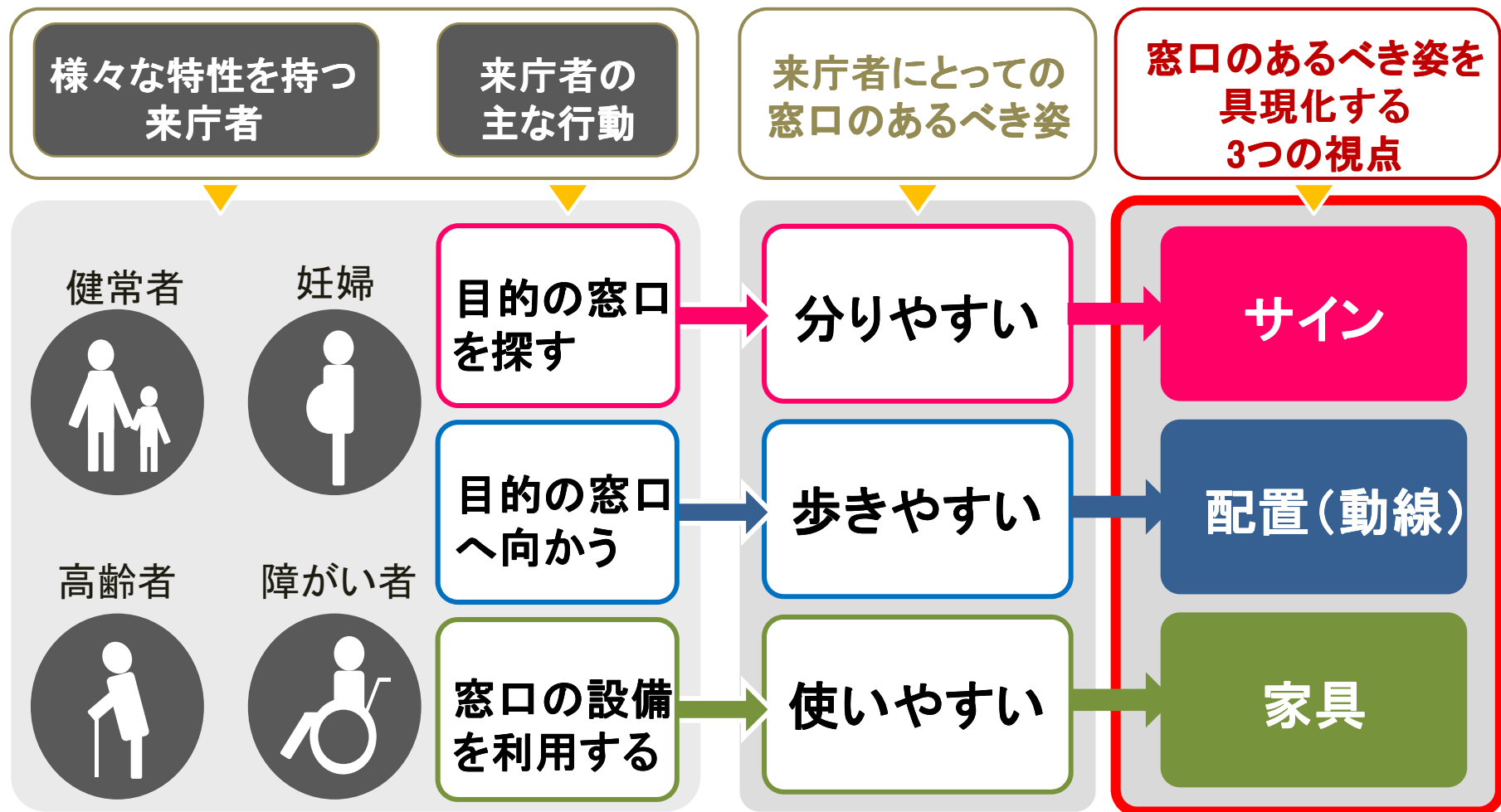


職員にとって
働きやすい空間



(2) 来庁者にとって利用しやすい窓口

①ユニバーサルデザインに配慮した窓口空間を構築します。



②来庁者の安全・安心を確保するため、プライバシーに配慮します。



●待合席は、窓口での会話を聞かれないように、
窓口カウンターと正対させないで配置します。



●相談室は、
会話が外部に漏れないように個室を配置します。



●窓口カウンターは、隣り合う来庁者の顔や手元が
隠れるように、仕切りパネルを設置します。

(3) 来庁者の利用動線に沿ったサイン計画

①外構のサイン

目的の場所を示す名称サインや目的地への方向を示す誘導サイン、また、敷地全体や現在地との位置関係を示す案内サインなどを、来庁者の動線、目線に考慮して、見やすく分かりやすい場所に設置します。

(エ)ユニバーサルデザイン
多目的駐車場や敷地内の段差、視覚障がい者用の誘導ブロックなどを計画します。

(ア)名称サイン
目的の場所を見つけるためのサインを設置します。

(ウ)案内サイン
敷地全体や現在地との位置関係をイメージするためのサインを設置します。



旭市役所



(イ)誘導サイン
目的の場所に向かって移動してもらうためのサインを設置します。



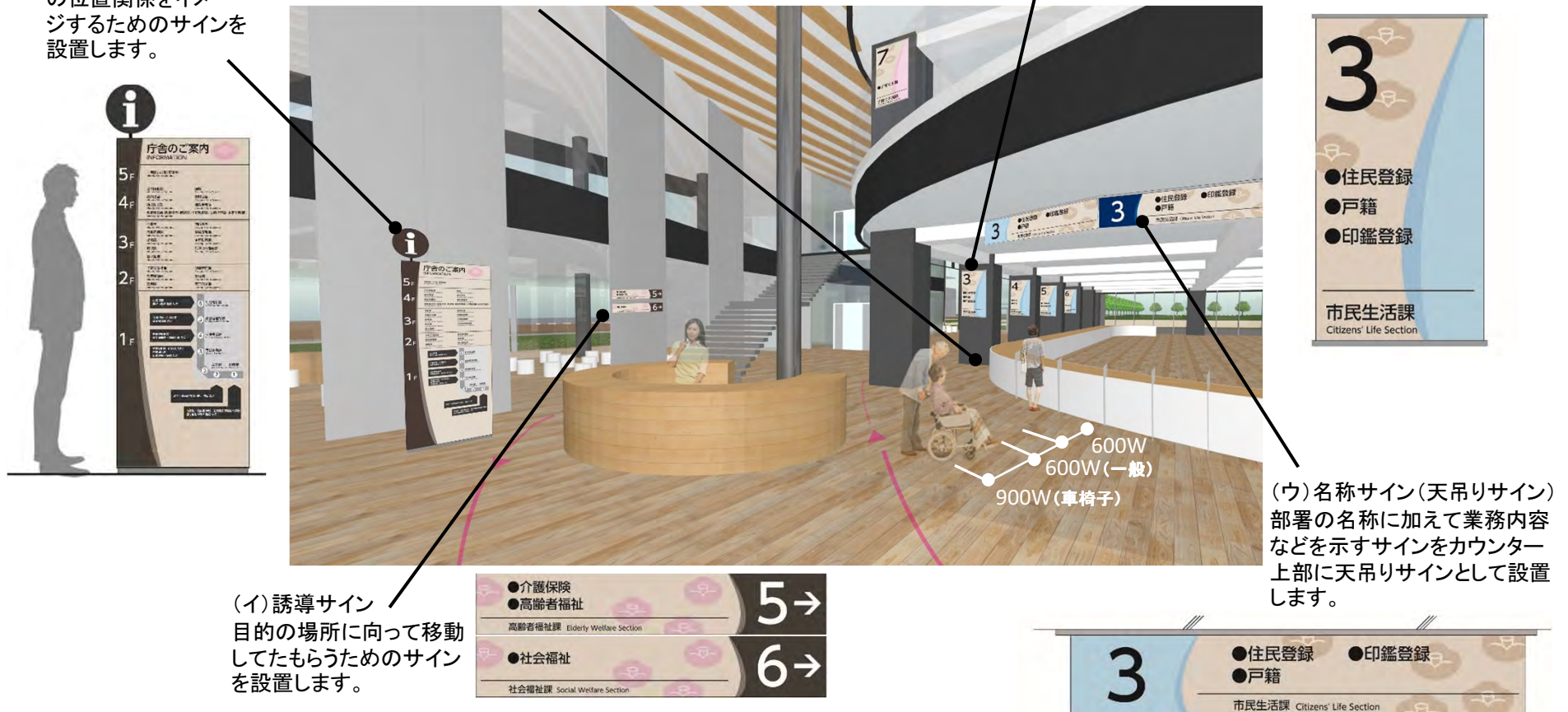
②建物内のサイン

建物全体や現在地との位置関係を示す案内サイン、また、目的地への方向を示す誘導サイン、特に、来庁者の多い窓口には、部署の名称に加えて業務内容を示す名称サインを、来庁者の動線、目線に考慮して、見やすく分かりやすい場所に設置します。

(ア)案内サイン
建物全体や現在地との位置関係をイメージするためのサインを設置します。

(オ)ユニバーサルデザイン
建物内の段差や視覚障がい者用の誘導ブロック、車椅子がすれ違える幅などを計画します。

(エ)名称サイン(柱サイン)
建築の柱を利用して、カウンター上の天吊りサインと垂直方向にサインを設置、視認性を高めます。



4. 防災・安全対策

(1) 旭文化の杜公園と連携した防災拠点

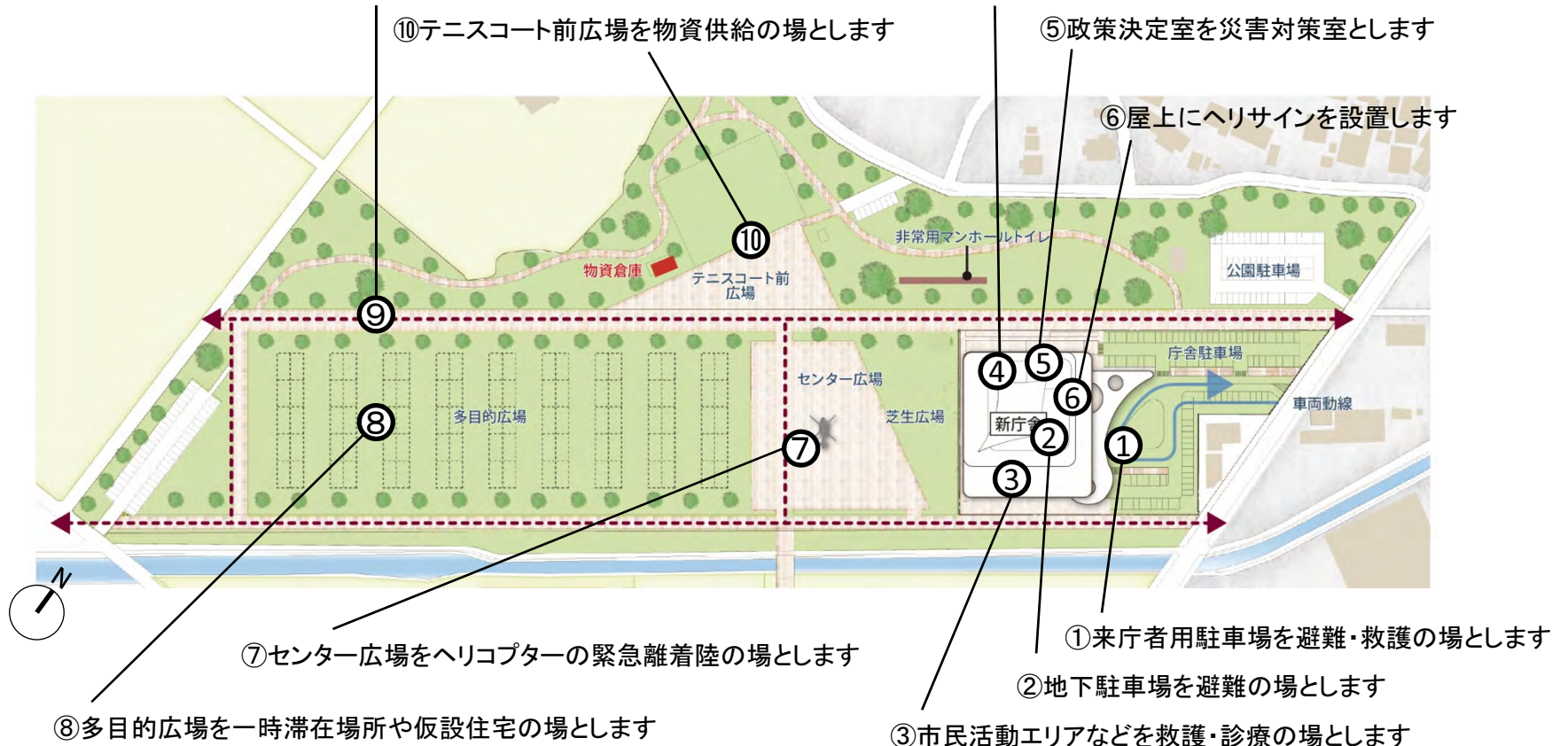
防災拠点として、災害時は、来庁者用駐車場を避難・救護の場として、また、新庁舎の市民活動エリアなどを救護・診療の場などとして機能転換します。

⑨公園の通路を緊急車両の通路とします

④会議室をボランティア諸室などとします

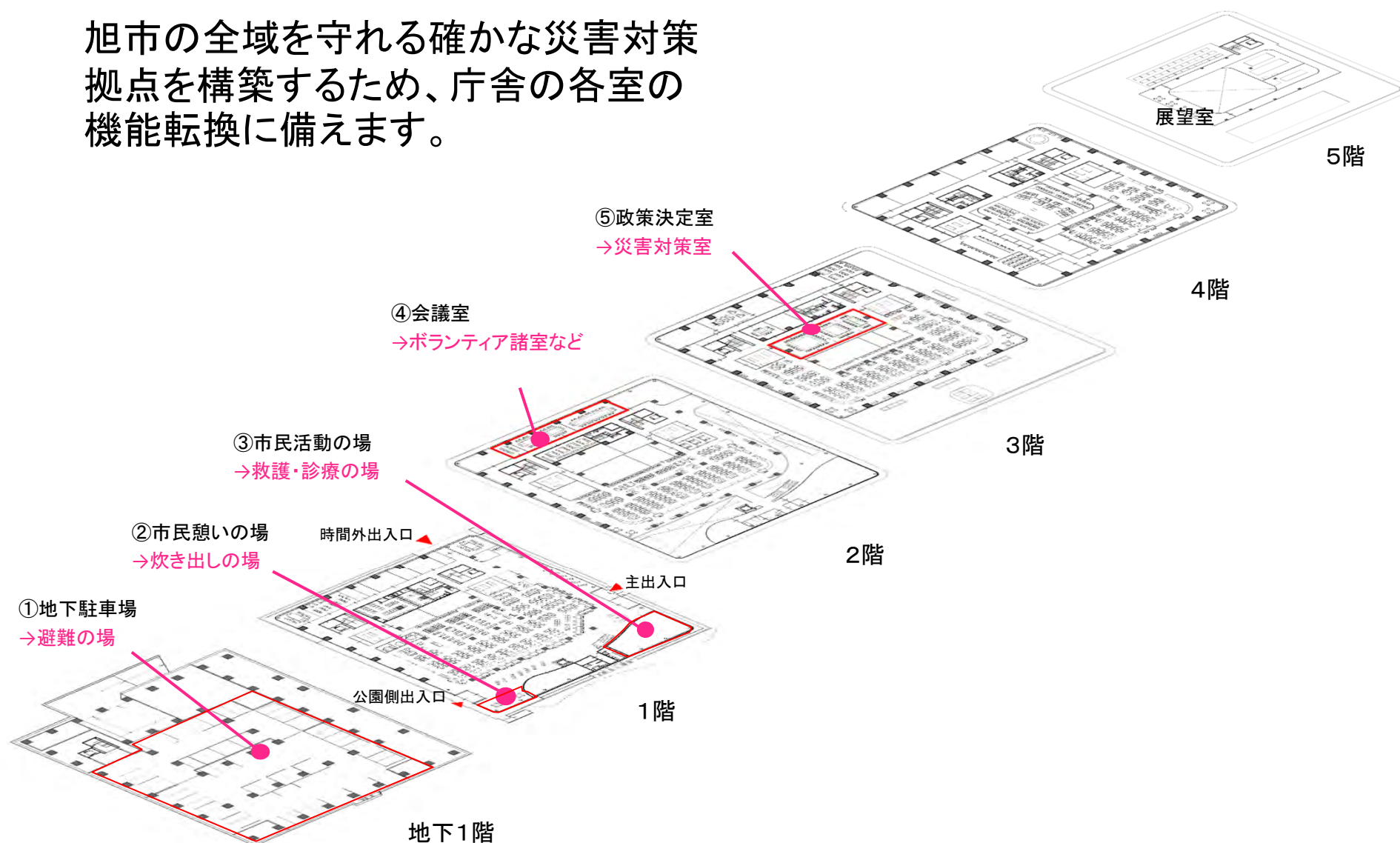
⑩テニスコート前広場を物資供給の場とします

⑤政策決定室を災害対策室とします



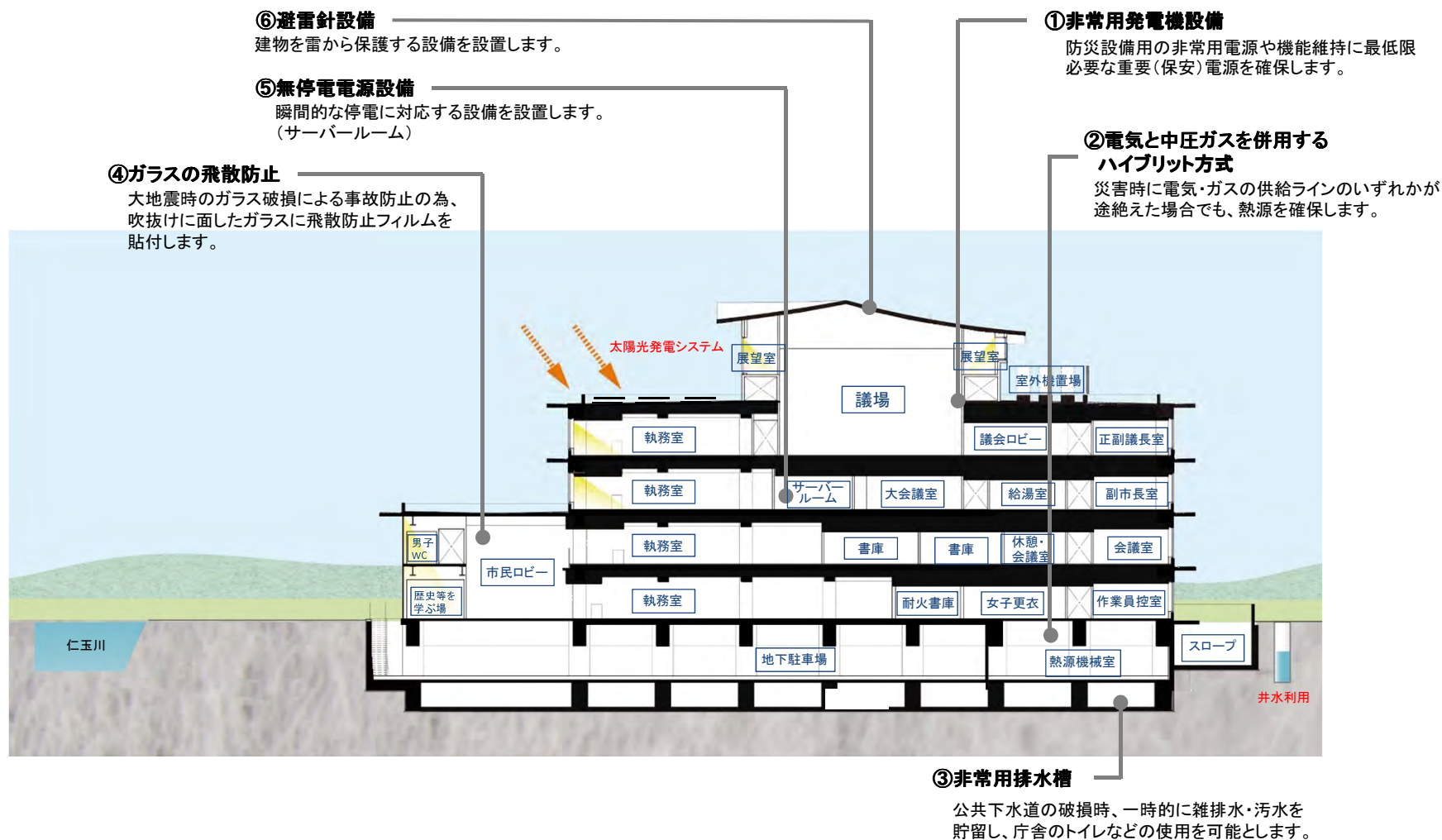
(2) 庁舎全体で災害に向き合う計画

旭市の全域を守れる確かな災害対策拠点を構築するため、庁舎の各室の機能転換に備えます。



(3)防災計画

災害発生時には来庁者や職員が迅速かつ安全に避難できる計画とします。
大地震発生後も損傷することなく、行政機能を維持できる安全な庁舎を計画します。



(4) セキュリティ計画

①セキュリティライン

個人情報の保護と防犯対策のため、市民活動エリアの利用に配慮して設定します。また、閉庁時間中の執務室内への立ち入りを、シャッターなどで区画し、関係者以外の立ち入りを制限します。

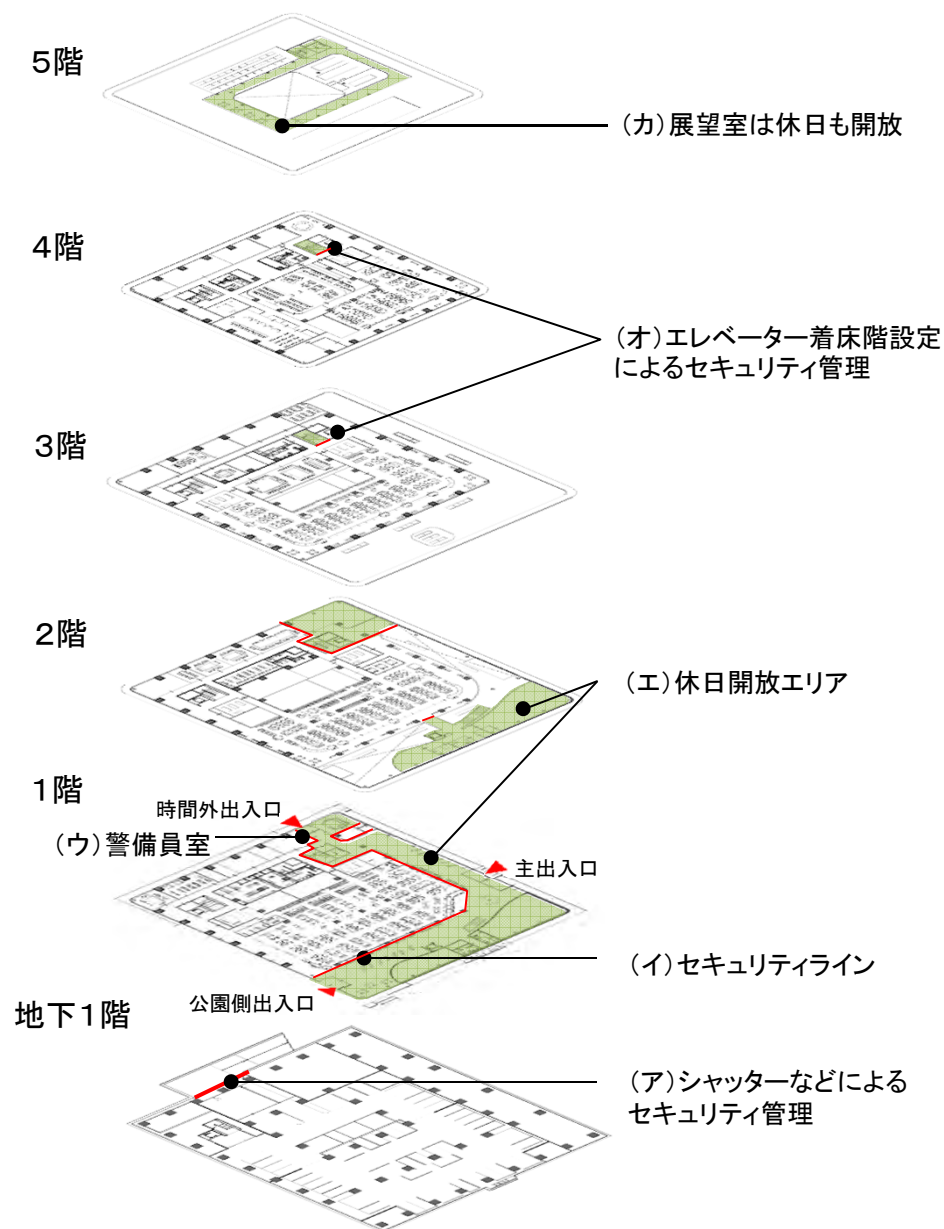
②警備員室

セキュリティの強化とともに、時間外(休日・夜間)の届出などに対応するために配置します。

③監視カメラ

1階や5階などの休日開放エリアを含め、監視カメラの設置に対応した計画とします。

(機器・配線はセキュリティ工事)



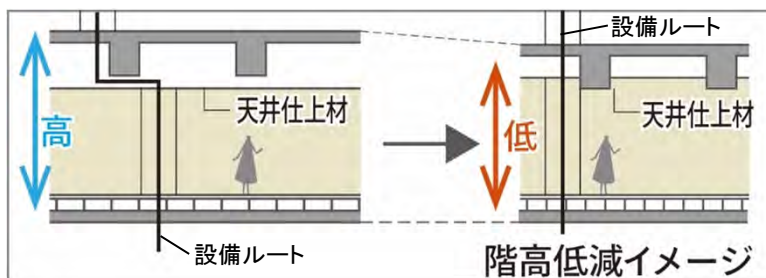
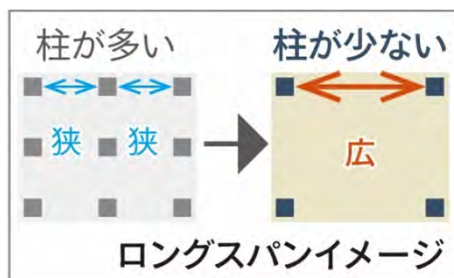
5. 生涯コストを抑えた施設整備

(1) 長寿命庁舎を実現する建築技術

①コストバランスを考慮した合理的な構造計画

(ア) 柱間を長くとれる構造とすることで、柱の数を減らします。

(イ) 設備ルートの合理化を図ることで階高を抑え、建物全体の高さを低くします。



②塩害対策

(ア) 各設備は極力屋内に設け、屋外に設置する室外機などは、耐塩仕様を採用します。

(イ) 屋外に面する建具類は、アルミ製を採用します。

③メンテナンスのしやすい庁舎

(ア) 各階にメンテナンスバルコニーを設け、日常的な窓・外壁清掃をしやすくします。

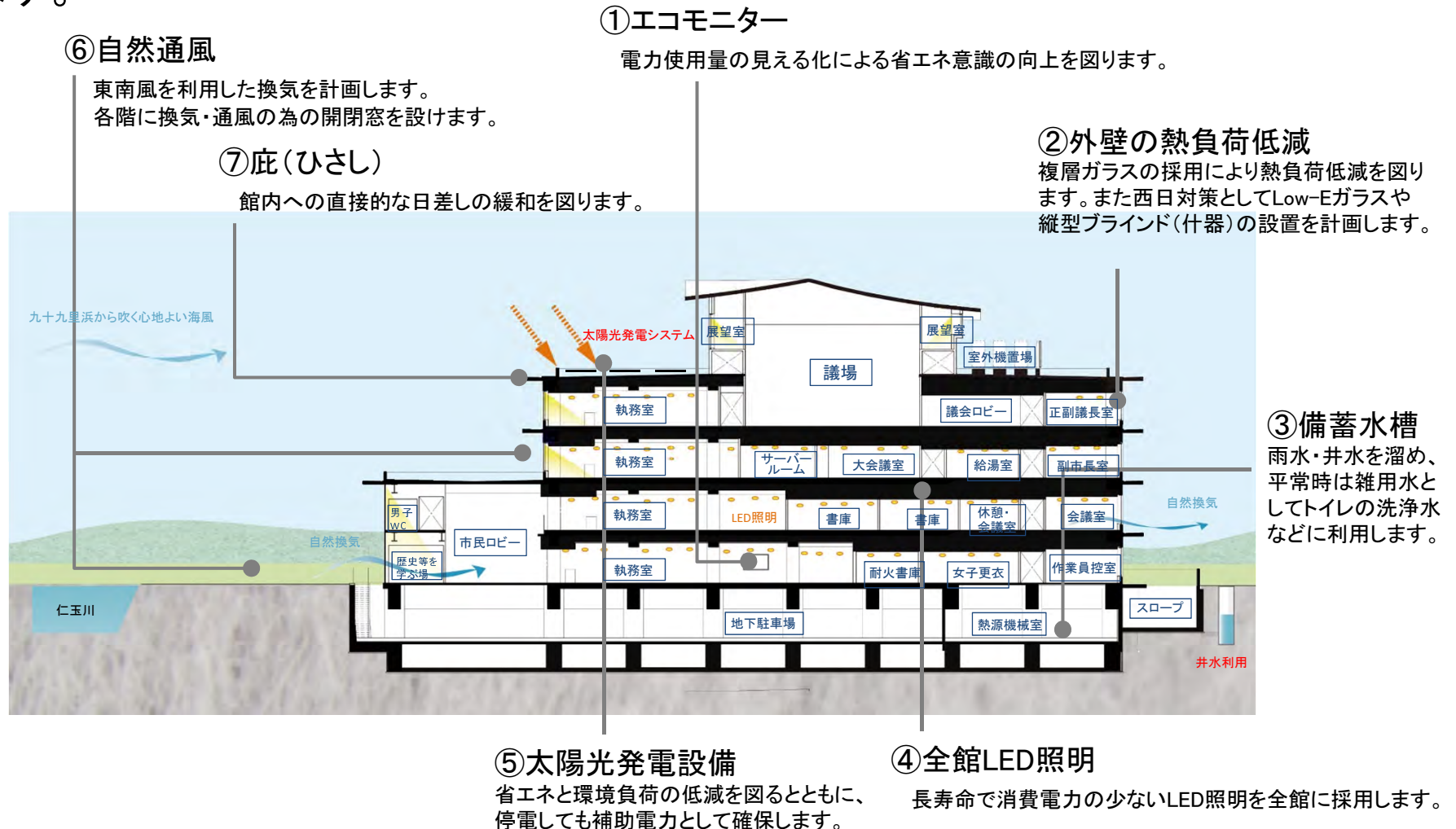
(イ) 配管・配線などの設備スペースは、ゆとりをもたせ、将来の設備増設や機器更新を行いやすくします。

(ウ) ガラスに光触媒(汚れにくい)塗料を施し、清掃回数を減らします。

(エ) 外構の植栽はメンテナンスが過大にならないように樹種を選定します。

(2) 環境計画

自然の力を効率良く取り入れるとともに、環境に配慮した電気・空調換気設備などを効果的に採用し、生涯コストの削減と環境負荷の少ない庁舎を計画します。



(3)電気設備計画

省エネルギーを実現し、快適な電気設備を計画します。

①電力引込設備

敷地境界より、地中埋設配管にて電力引込幹線を電気室まで引き込みます。

②受変電設備

電気室に受変電設備を設置し、高圧電力を低圧電力に降圧し、建物内に供給します。

③非常用発電機設備

地下オイルタンク(燃料備蓄量3日分)を設置します。

④太陽光発電設備

発電設備(20kw)を設置します。

⑤電灯設備

LED器具を採用します。

⑥コンセント設備

用途、機器の配置に合わせて、適切に配置します。

⑦幹線、動力設備

幹線は、ケーブルラックにて構築し、環境に配慮したエコケーブルを採用します。

⑧無停電電源設備

瞬間的な停電に対応する設備をサーバールームに設置します。
(機器費用、システム配線などの工事は除く)

⑨情報、通信設備

主要な幹線ルートは、ケーブルラックにて構築し、拡張性のある計画とします。
(システム配線などの工事は除く)

⑩誘導支援設備

トイレなどの呼出し装置やエレベーターの音声案内装置などを設置します。

⑪防災設備

火災報知設備など、消防法及び建築基準法に基づき設置します。

⑫防犯設備

入退室管理設備や監視カメラ設備などの配管を設置します。
(システム配線などの工事は除く)

⑬昇降機設備

エレベーター(車椅子対応)を庁舎県道側、公園側、仁玉川側に各1台設置します。

(4) 空調換気設備計画

人と環境にやさしく、快適な空調換気設備を計画します。

① 熱源設備

電気と中圧ガス(都市ガス)を併用するハイブリット方式を導入します。

② 空調設備

災害対策関連室は、他と別系統とし、災害時も運転可能となる計画をします。

③ 換気設備

建築基準法及び建築物における衛生的環境の確保に関する法律に基づき、室別に適切なシステムを採用します。

④ 排煙設備

自然排煙と機械排煙を併用します。

⑤ 中央監視設備

熱源設備や空調設備などの監視、運転制御を一元的に管理できる設備を計画します。

⑥ 自動制御設備

空調設備機器や衛生設備機器が状況に応じて適切な状態となるよう、自動的に制御する計画をします。

(5) 給排水衛生設備計画

省資源に配慮した、給排水衛生設備を計画します。

① 給水設備

飲用水(市水道)、雑用水(井水・雨水)の2系統給水とします。

② 給湯設備

個別に湯を出す局所式とし、給湯室に電気式温水器(飲用・洗い物用)を設置します。

③ 衛生器具設備

大便器は、節水型で雑用水対応の腰掛便器を採用し、洗浄便座とします。小便器は、自動洗浄式で雑用水対応の器具とし、節水と清掃性に配慮します。

多目的トイレにはオストメイト対応トイレを設置します。

④ 井水、雨水利用設備

備蓄水をろ過処理し、雑用水として利用します。

(さく井工事は除く)

⑤ 排水設備

高所から低所へ向って排水を流す重力式排水を原則とし、汚水と雑排水の2系統排水とします。

⑥ 消火設備

屋内消火栓設備やガス消火設備など、消防法に基づき設置します。

6. 新しいまちづくりの拠点

(1) 市民の創造する意欲を盛り上げる場

① 市民活動の場

各種発表会をはじめ、演奏会や期日前投票、税の申告相談など、幅広く利用できる場を計画します。

【1階】



【発表会イメージ】



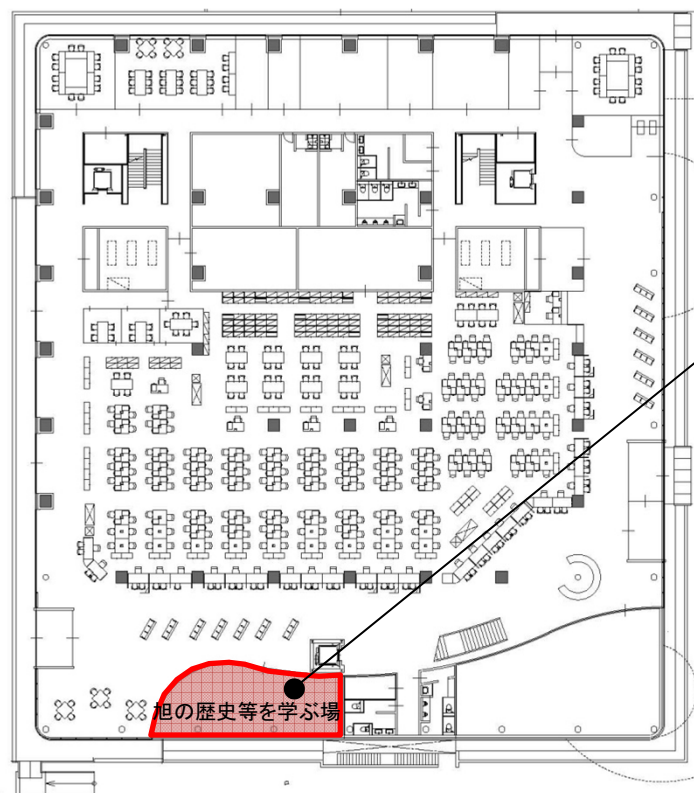
【期日前投票イメージ】



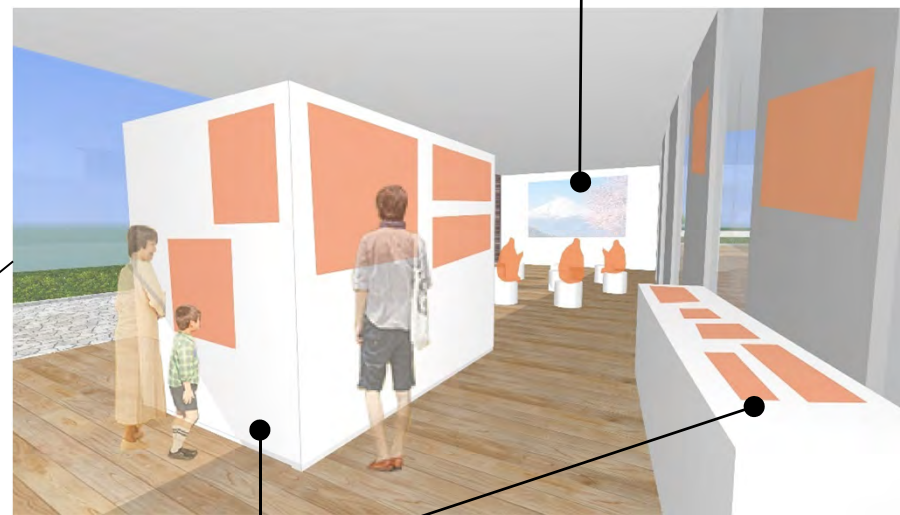
②旭の歴史等を学ぶ場

旭の歴史や偉人の展示会をはじめ、市政情報や市の観光情報などを放映するなど、来庁者が気軽に立ち寄れる場を計画します。また、幅広く利用できるように、展示パネル等は移動できる仕様として計画します。

【1階】



【市の観光情報をスクリーンで放映イメージ】

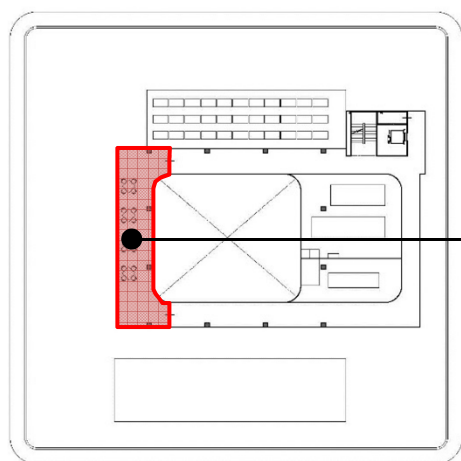


【企画展イメージ】

③市民憩いの場

軽食ができる休憩スペースを1階フロアと5階フロアに計画します。

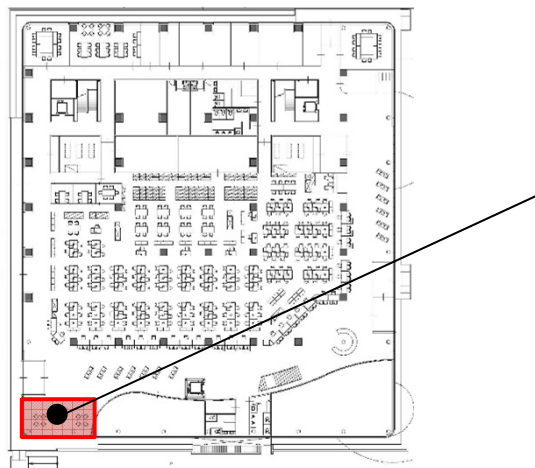
【5階】



【5階市民憩いの場】



【1階】



【1階市民憩いの場】



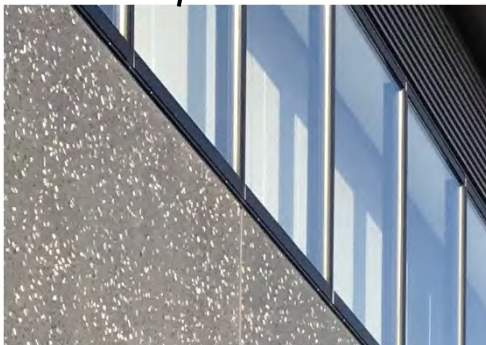
(2) 外観パース

白・黒・自然色を基調とした、質素でシンプルなデザインで、周囲の景観に調和した計画とします。

【正面玄関から見た外観イメージ】

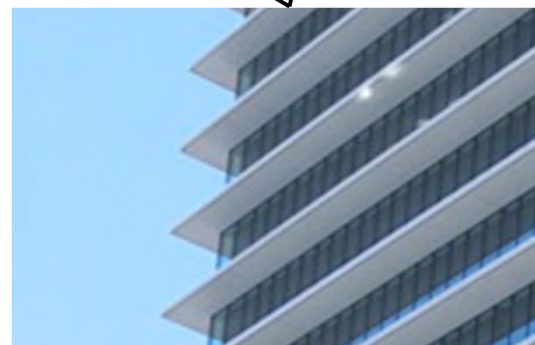


【旭文化の杜公園側から見た外観イメージ】



②低層部

ガラスを多く使用し開放的なデザインに、自然の風合いを感じる素材を組み合わせたモダンなデザインを計画します。



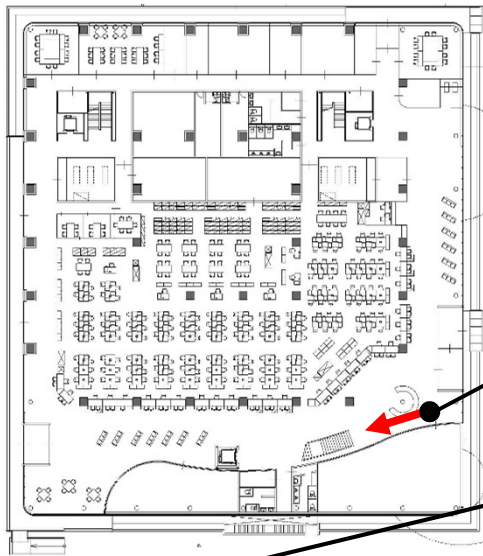
①上層部

庇による水平ラインを主としたシンプルなデザインを計画します。

(3) 内観パース

内装の一部に木材を使用して、深みと安らぎのある空間を計画します。また、機能性が高く清潔さを保ち、清掃しやすい材料を採用します。

【内観イメージ】



③床



②天井



①家具

7. 工事計画

(1)概算事業費

建設市場の動向や建築構造などにより、変動する可能性があります。

項 目	内 容	事業費
本体工事費	※地下駐車場含む	約 52億円
外構工事費	駐車場、緑化、案内看板	約 1億6,000万円
解体工事費	解体費(現本庁舎、第二庁舎)1億3,800万円 アスベスト撤去費4,000万円	約 1億7,800万円
その他工事費	上水道1,300万円、排水500万円	約 1,800万円
計		約 55億5,600万円

(2)スケジュール

工場生産品やユニット化製品の積極採用により、騒音・振動の軽減を図ります。また、建設中の防災対策や公園利用者に配慮して新庁舎建設を進めます。

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
基本計画						
基本・実施設計						
建設工事						
解体工事						